



脱影奇観和解

陽影之部

洋学文庫

文庫8

C 103

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19



脫影奇觀原序

晴侯氏曰

昔在故國、於咸豐三四年間、初試照影、以為博戲之
事、緣弱冠時、嘗入醫學、多明化學之理、因照像旁及光
學之書、竊以故國攻於畫者、每寫影傳神、極力描模、而從
不如脫影之逼真、肖似也、抑思脫影雖佳、而照大不易、由觀燈劇、
一夕豁然、頓悟出燈影鏡畫大之法、西國有造二氣燈者、其光
烈如皎日、燃之、感其光、亦
可成試行不謬、迺於咸豐五年、登諸新報、茲於同治二年、

航海而東、爰和好後、特觀光於帝王之都、啟園官高、各出捐
資、共襄善舉、於崇文門內、設立施醫院、數年於茲、頗蒙士大
夫、不鄙疏遠、謬加稱許、惠賜扁額四十餘方、褒獎頌揚、而垂青者、
未免過當、負也不才、奚當此譽、邇來賢士大夫、光顧相邀者、日不
暇給、酬酢之餘、知我有聚影畫者、不以技之工拙、而委我以影、影事、
於是中西各國之友、接踵相托、而疾病顛連之人、絡繹旁午、終日
應答不遑、衷情灰然、因思將脫影之事、譯出華文、編次成書、用

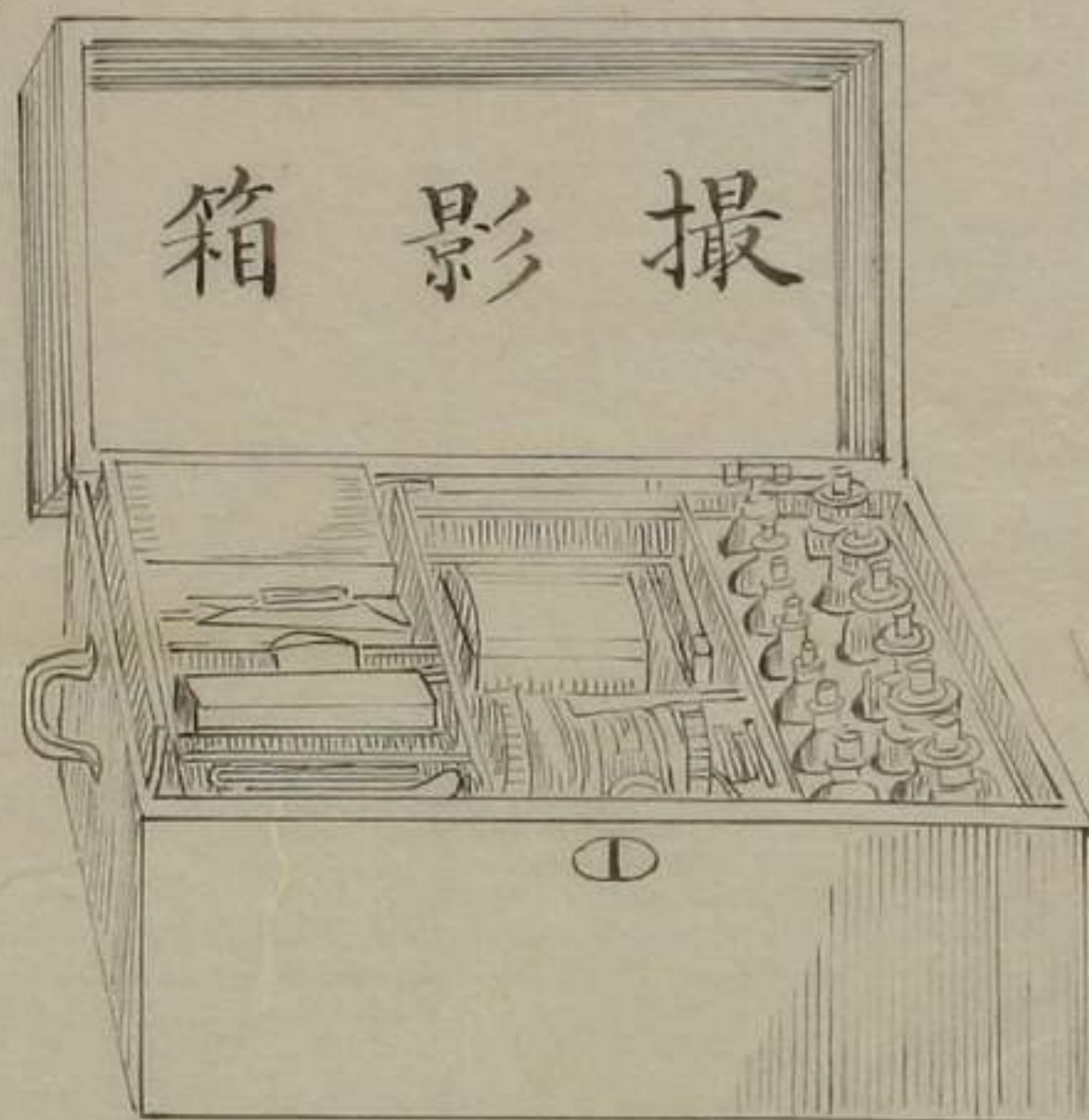
酬友道、稍舒歎、顏曰脫影奇觀、俾中外之人、閱是書者、瞭然
於心目、使其法顯明、照著、以公於世、非術技也、庶可鄙市井之談、
然而鄉愚之人、往往以井蛙之見、妄觀泰西畫、詎知畫之
妄加詆毀、謬謂目睛之水、即人心之血、嗚呼、斯人之見也、猶井
而觀天、抑何可笑、而更可悲也、笑其偏見、悲其以盜鑿之心、
而測夷惠之志行也哉
殊不知歐洲列邦、凡欽崇天主耶穌之國、四國不在其內、被其神化
者、無不以愛人爲心、殺人爲戒者也、至於一切巧構奇思、機輪妙

器生新不窮、乘氣球飄然千丈而凌空、藉電線倏忽萬里以
報信、是皆本諸靈性、由窮理而悟出、實非攻乎異端、假邪術、而
得來、蓋泰西真教、誠律、綦嚴、有稍涉乎妄誕者、雖一言之微也、
尚不容出諸口、一事之怪也、列國環起而攻之、而況此賤賊不仁之
事者乎、嘗因中友數人、欲學此技、下問於予、余曰、藝術末流、通
計七事、而光化兩學、法則尤多、非言可以盡其術者、容俟繙譯
成書、則當呈政、是為序、同治拾壹年歲次壬申清和月上澣

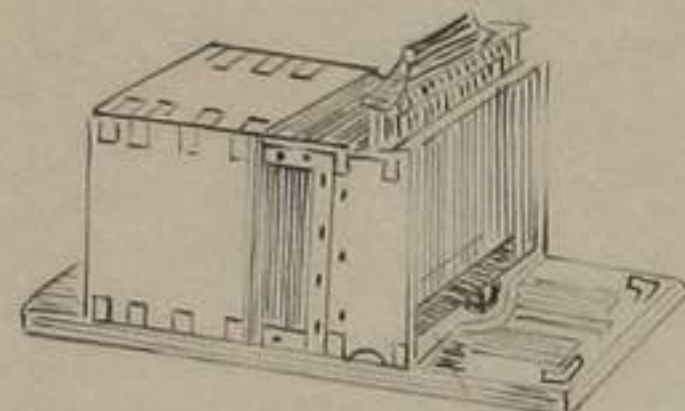
吳人德負、識於施醫院之來賓館、

第一圖

撮影箱



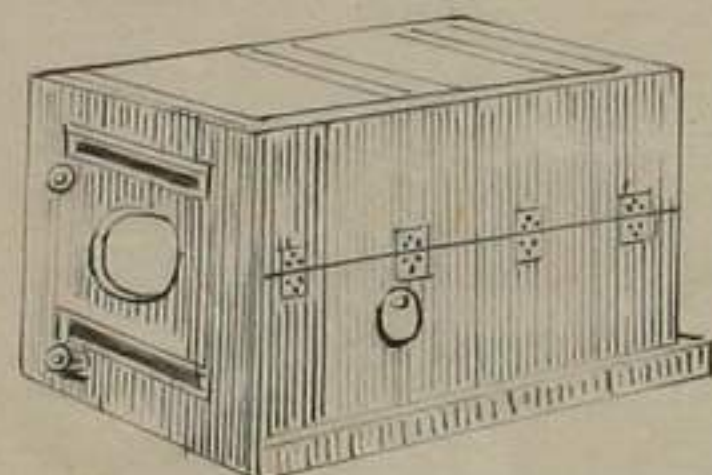
第四圖



匣影裏

帶銅舒腰者

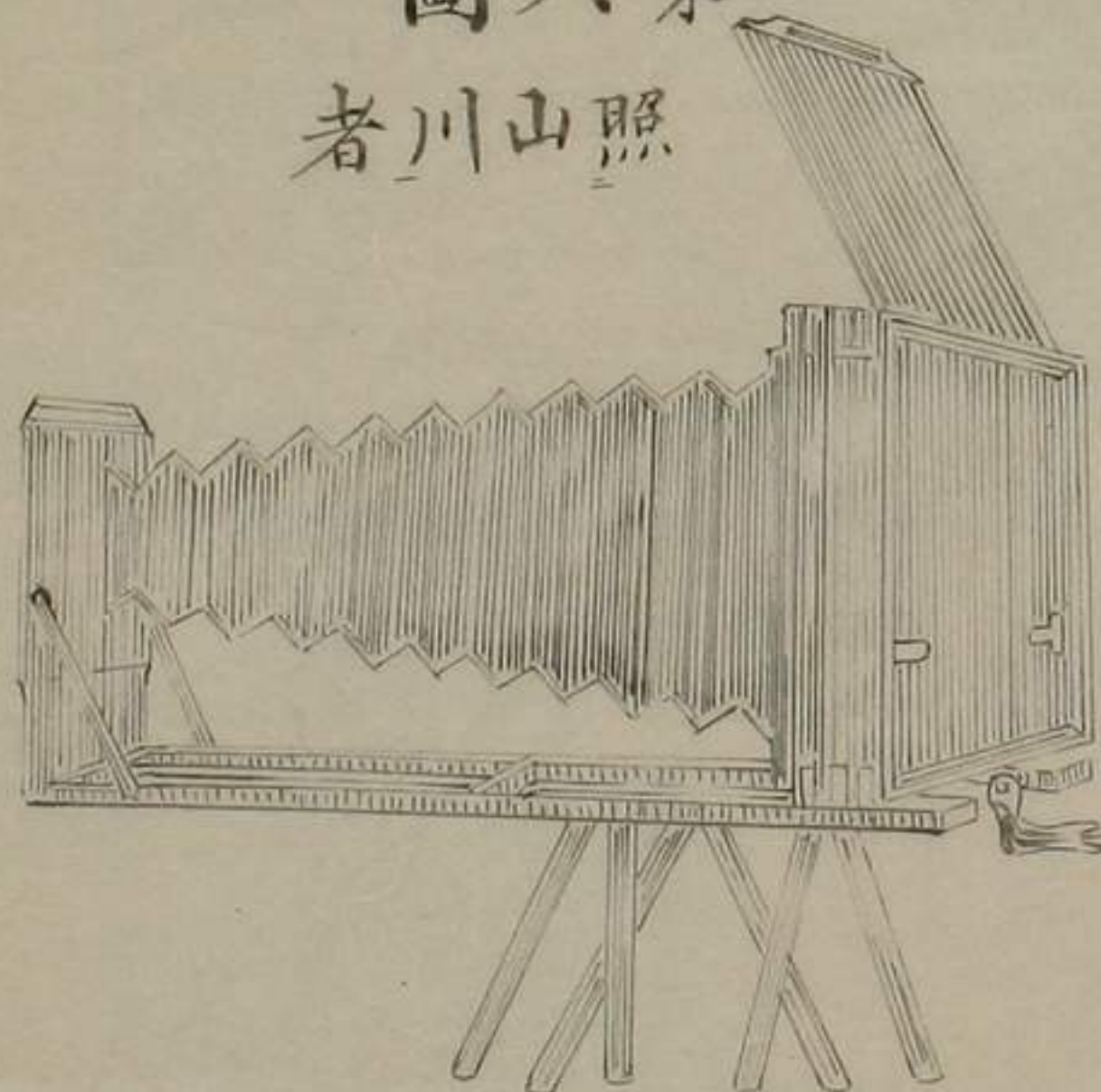
第五圖



折疊裏影匣

第六圖

照山川者

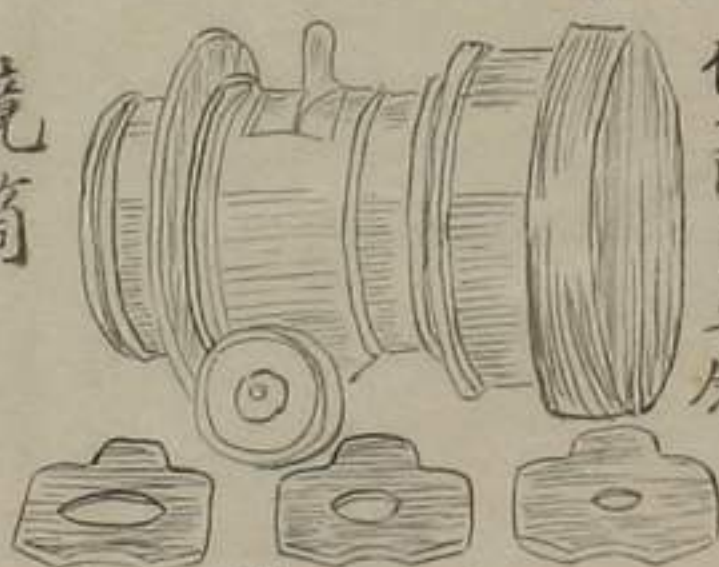


風琴聚影匣式

第二圖

筒帽

鏡筒



雙改色之鏡

截光壁

第三圖

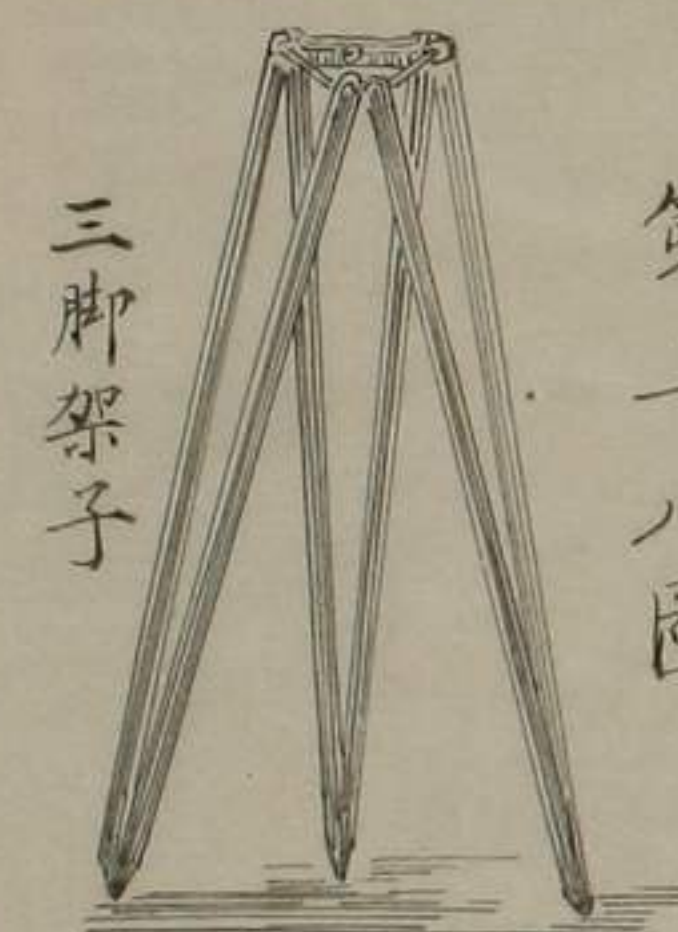
筒鏡帽筒



照山川之鏡



第十七圖



三脚架子

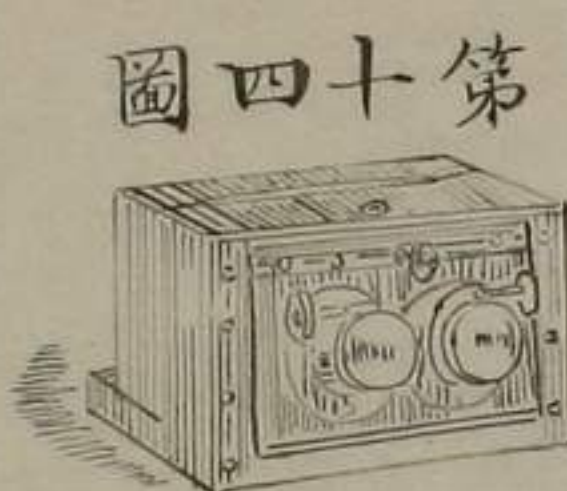


三脚架子



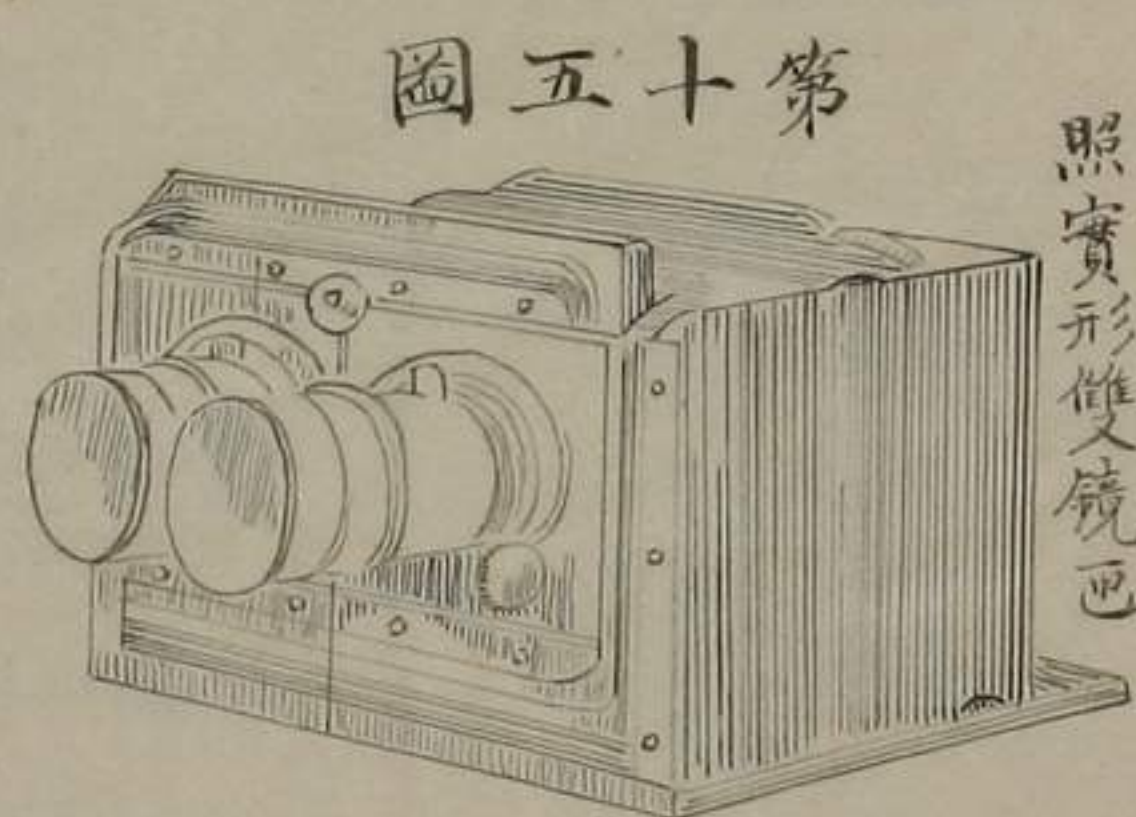
第三十圖

實形雙鏡匣



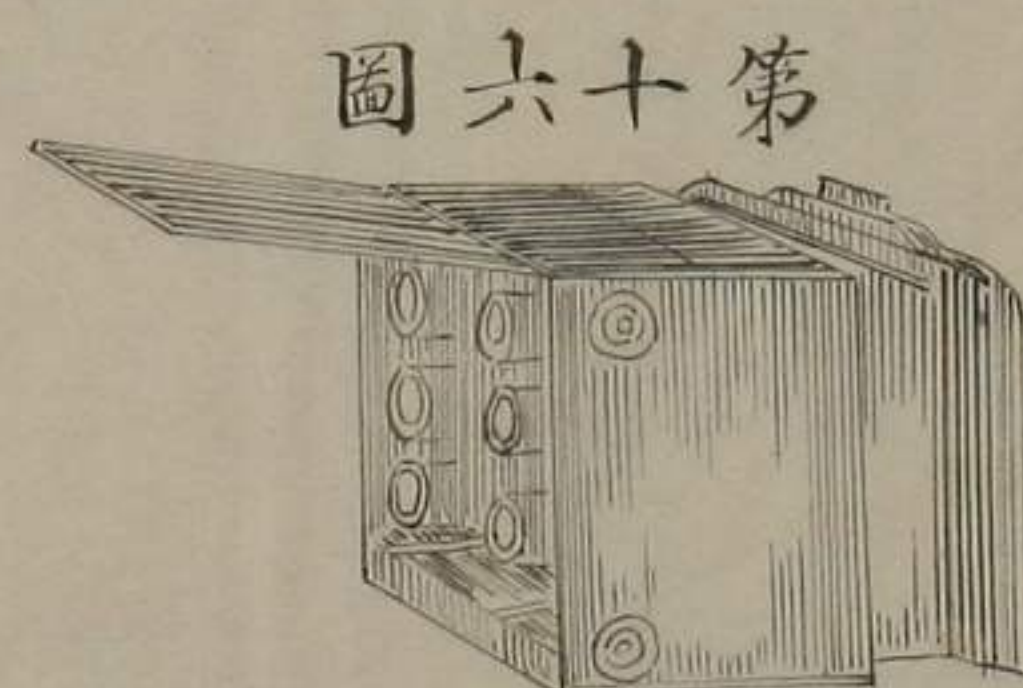
第四十圖

實形雙鏡匣



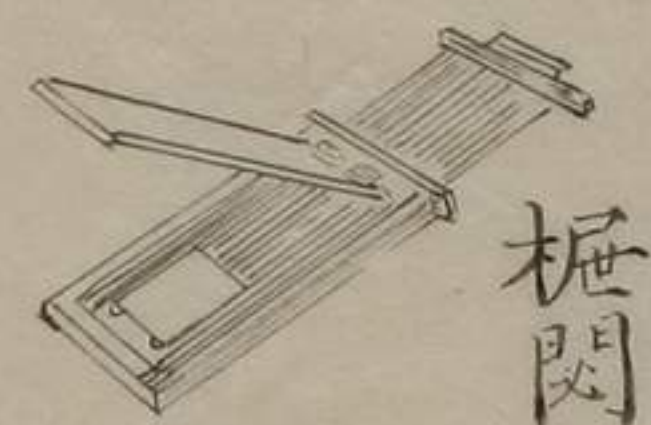
第五十圖

照實形雙鏡匣



第六十圖

照三對聚影匣

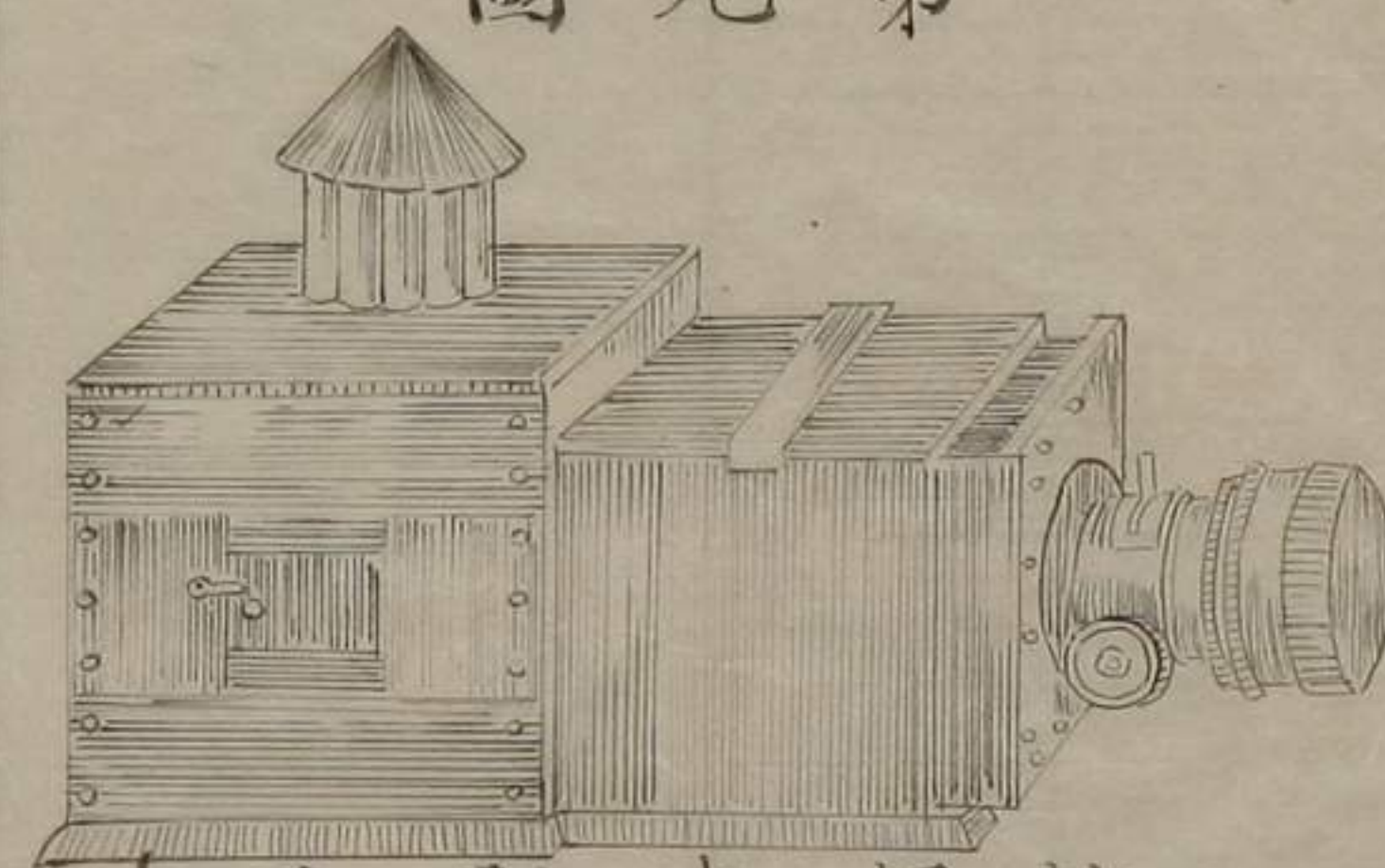


第七圖

風琴匣

照人影者

第九圖



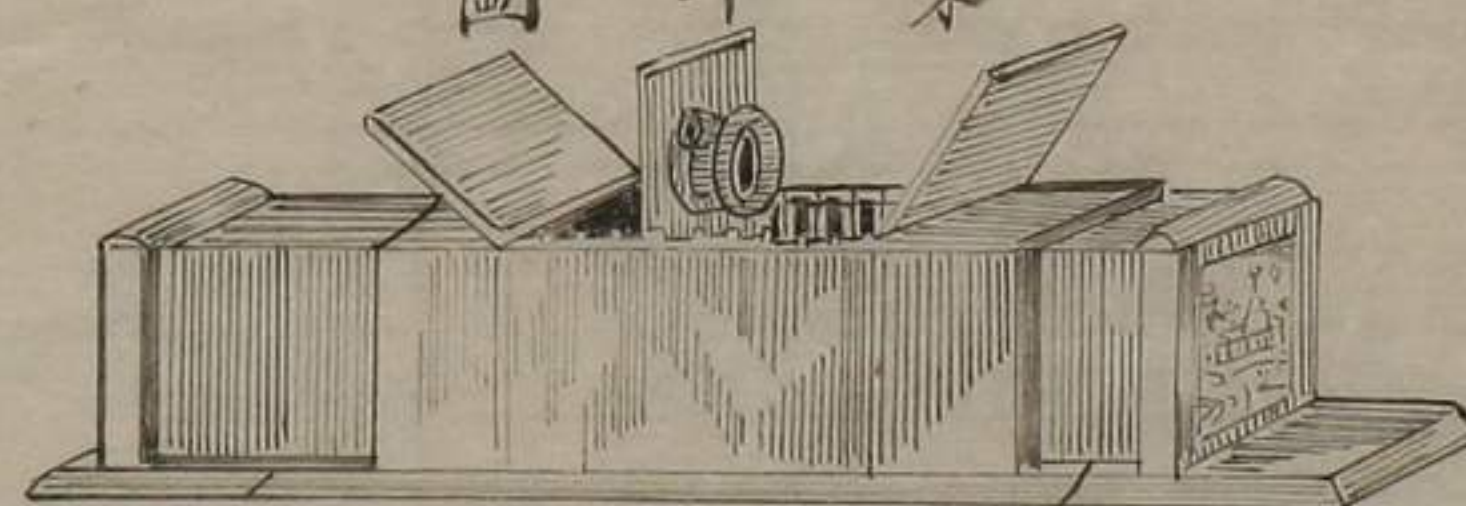
抽板匣影匣

第八圖

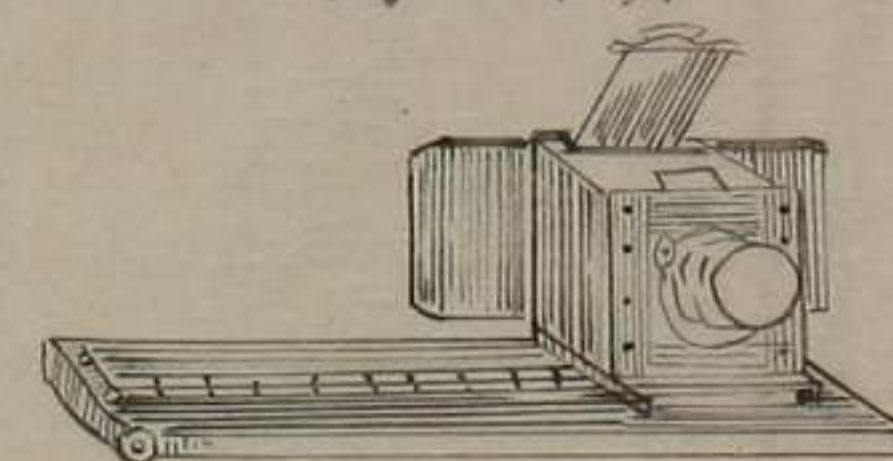


風琴匣並式

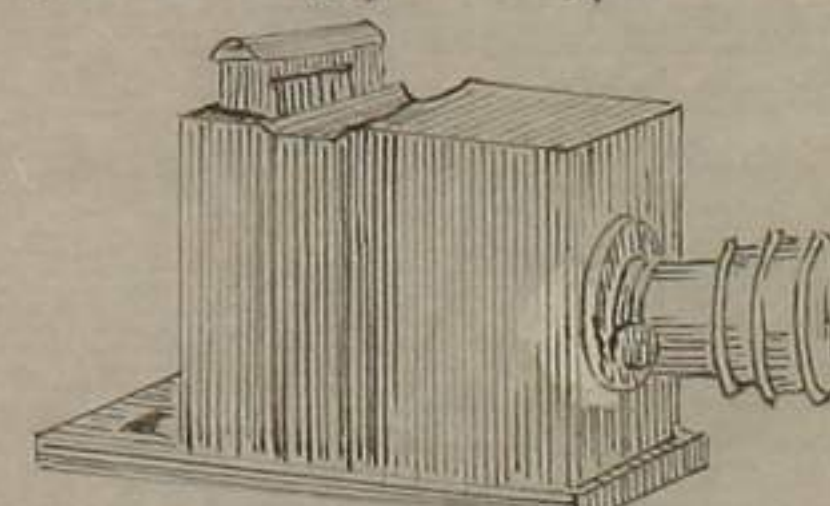
第十圖



第十圖聚影匣第二十圖



實形單鏡匣



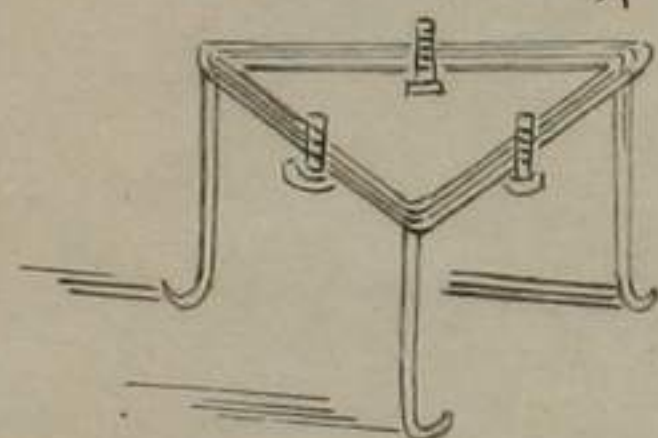
二氣燈大之匣

圖五十三第



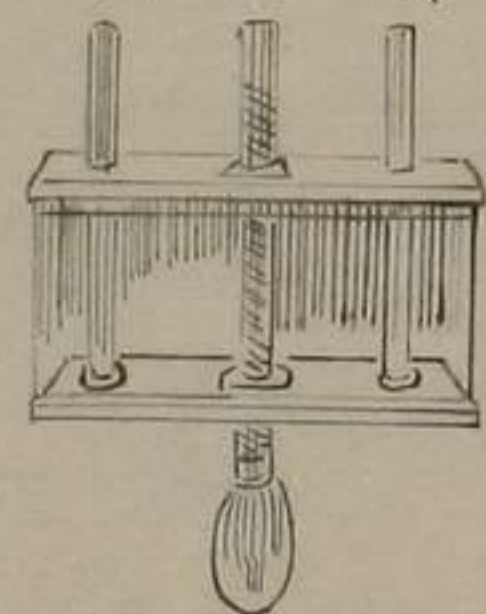
軋紙片鐵軋圖式

圖六十三第



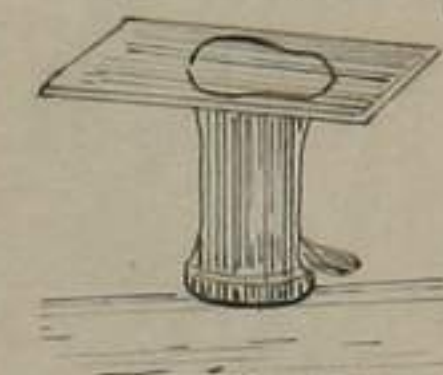
平置玻片之架子

圖七十三第



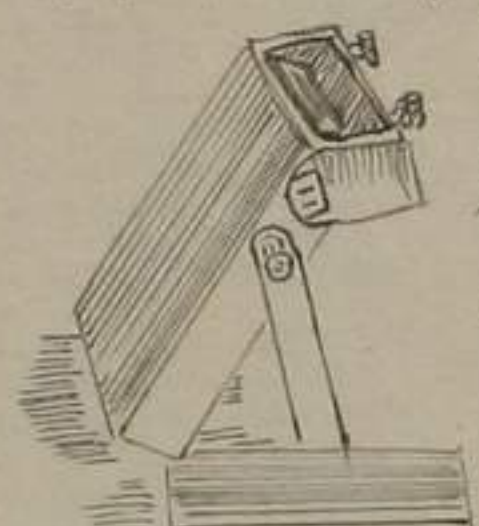
擦玻璃檯子

圖八十三第



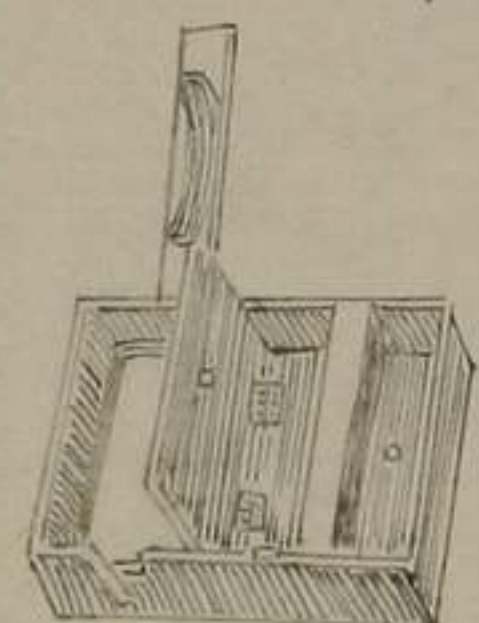
吸器筒

圖十三第



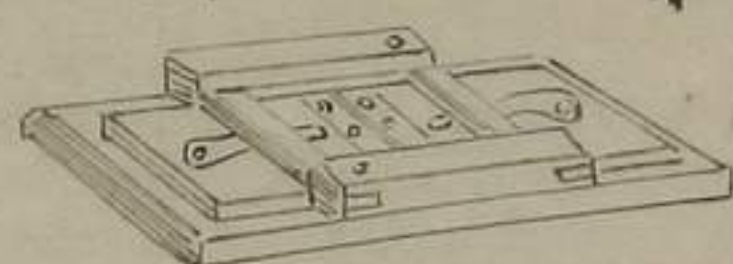
帶蓋銀水筒式

圖一十三第



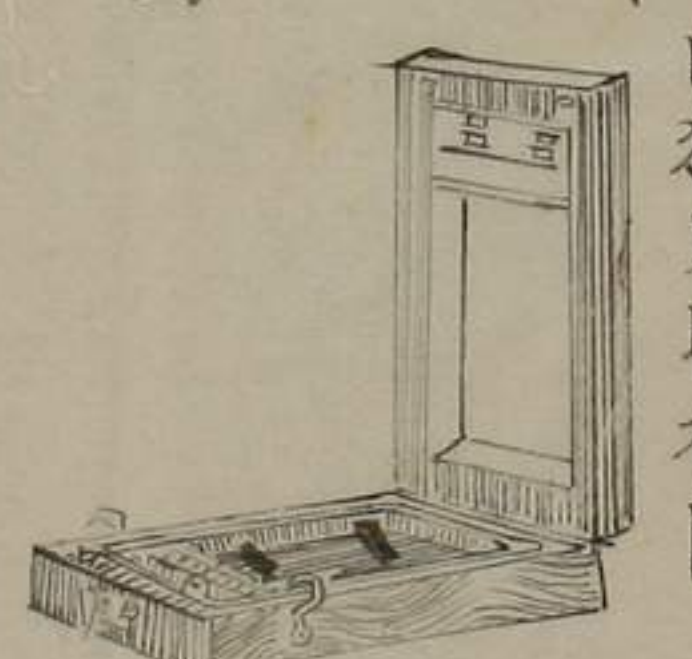
印影框閥

圖二十三第



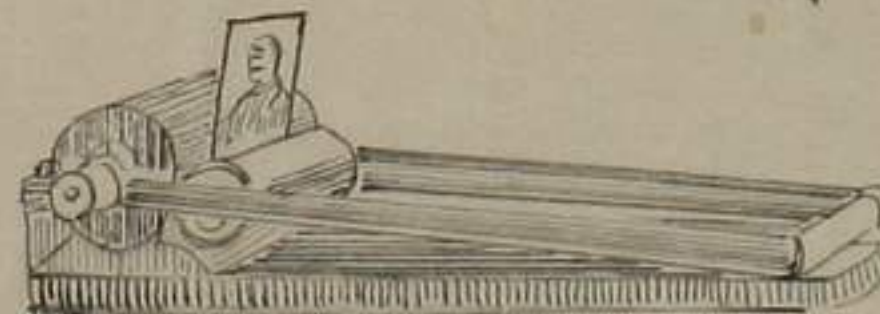
印影框子

圖三十三第



印貓兒眼框閥

圖四十三第

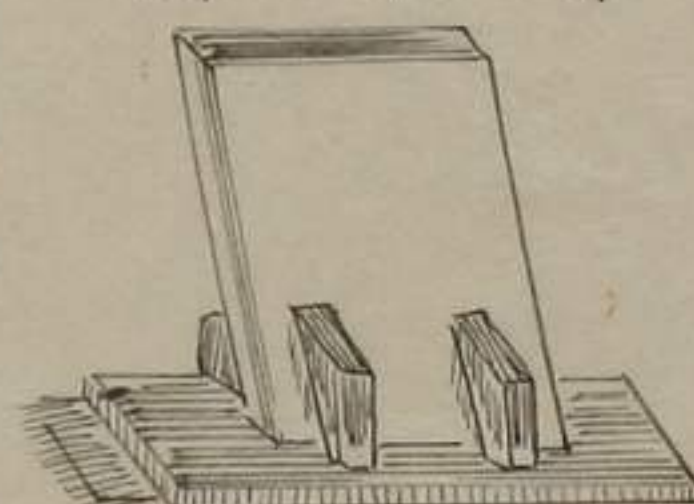


軋紙片鐵軋

圖六十二第



圖七十二第



圖八十二第



圖九十二第



銀水筒

圖三十二第



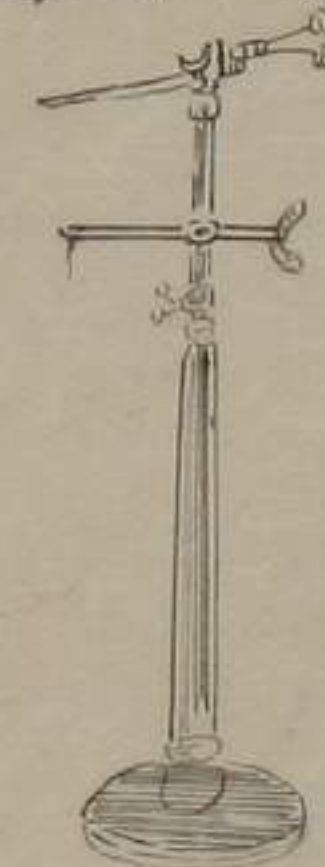
第椅上轉環鐵戲

圖四十二第



站立之鐵戲

圖五十二第



站立轉環之鐵戲

圖十二第



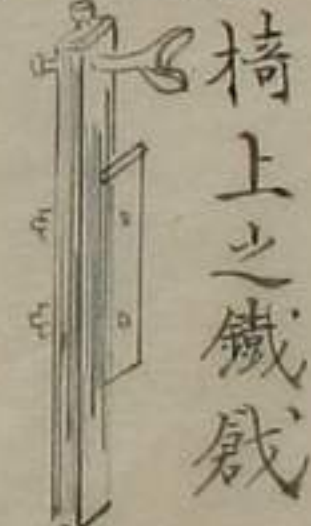
三脚架子

圖一十二第



三脚架子

圖二十二第



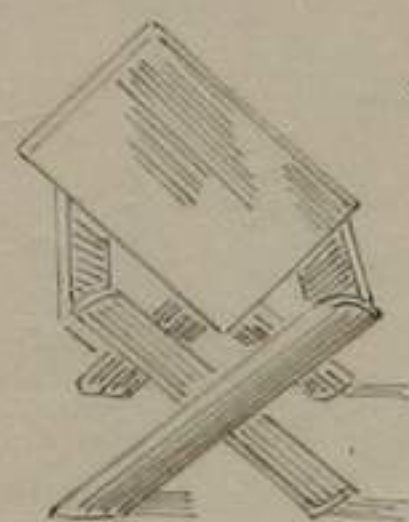
第椅上之鐵戲

圖三十五第



看實形鏡

圖四十五第



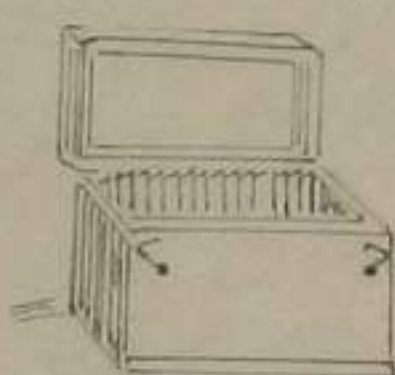
控玻片之榫子

圖五十五第



酒平

圖六十五第



裝玻璃匣

圖八十四第



天平

圖九十四第



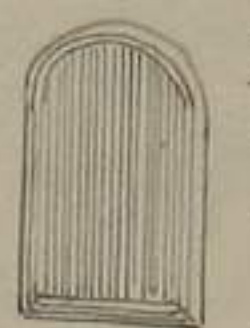
燃酒燈

圖十五第



顯微鏡

圖一十五第



裁玻璃式樣

圖二十五第



看畫鏡

圖三十四第



葛羅制子瓶

圖四十四第



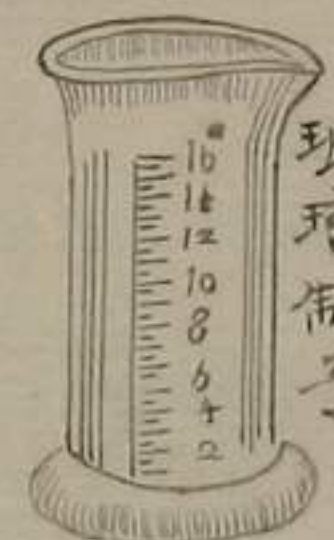
裝葛羅制子瓶

圖五十四第



漏子

圖六十四第



玻璃制子

圖七十四第



玻璃制子

圖九十三第



障間室

圖十四第



驗銀表

圖一十四第



蛋清漏子

圖二十四第



葛羅制子器

脱影奇觀

英國 德負 著

日本 宇田川準一和解

照影應用器及藥料之談

書ニ云ク攻^{モシ}其事ヲ善セント欲セバ必先^ス其器ヲ
利スト而ルニ照像ナル者モ亦タ宜ク諸物ヲ全
備スベキナリ○第一ニ應用ノ各等ノ器及一全
分ヲ買ヒ調^{トナ}フコトヲ要^{ヨウ}ス大^オ約^{ヨク}初^{ハツ}メテ此技ヲ學
ブ人其ノ置^{ツカフ}辨スル所ノ物^{モノ}賤^{チン}劣^{セウ}不^フ經^{キョウ}ノ物ニシテ

往々ツノ藝ノ進マザルコトアルハ是ガタノナ
ルノニ然ルニ其各等ノ器具ノ精工ナルモ亦タ
必シモ其價ノ昂貴ナルニ限ラス如シ之ヲ買ハ
ント欲セバ湏ラク其ノ人ニ托安シテ稍クニ西
國ノ馳名家ノ物ヲ買フベシ是レソノ新ト舊ト
ニ論ナク新ジテ佳ナラザル者無シ中國ニ在テ
舊物ヲ買フガ若キハ毎々人ノ欺騙ヲ受ク其物
ノ之キニ因テ轉售スル者アリ弊ヲ致スニ縁テ
轉スル者アリ湏ラクソノ差ナキヲ保ツテ買調フ
ベシ否ラザレバ其所誑ヲ被フハラン務メテ其

△此ノ一段ヲ別行ニ
書スヘシ

器具ヲ試ムルヲ要ス先ヅ一影ヲ照シテ以テ憑
ト為ス如シ之レヲ照シ試ミテ其ノ影果シテ佳
ナレバ則テ錯アルコトヲ致サシムル應用ノ藥料並
ニ一切ノ器具等ハ事ハ下巻ノ首ニ列子又タ其
ノ價碼モ盡ク開清セリ〇一ツハ眼影画有ルヲ
要ス乃チ照影ニ最モ緊要ノ物タリ其画ノ大小、
工ノ巧拙、木料ノ貴賤、種種アリ家中ニ在テ用ル
所ノ画ハ固ヨリ其ノ分量輕重、大小、ニ論ナク
均ク不可ナル者ナシ惟外ニ出デ、照影スルノ
画ハ務メテ輕巧ニシテ且攜帶ニ便ナル者ヲ要

其器具ヲ取リ

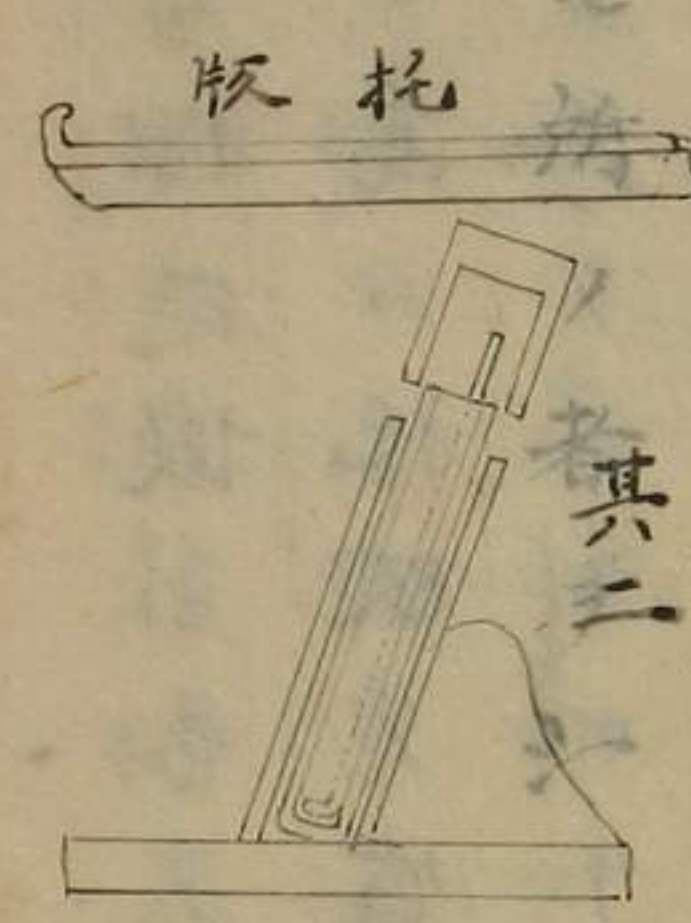
ヨリトヨ

カクミ

モチハコヒ

ルコト方ニ妙ナリ○一ハ照像ノ鏡光ヲ要ス
 單光偶令ノ兩種アリ其ノ單ナル者ハ乃チ山
 川ナド不動ノ物ヲ照スノ鏡ナリ此鏡ハ影ニ
 モホク用ユバシ偶令ナル者ハ乃チ人物ト動物
 トヲ照スノ鏡ナリ此鏡ハ其口潤大ニシテ物ヲ
 照スコト真切ニテ成影ノ工刻最モ疾シ兼テ之
 レヲ以テ山川ヲモ照スベシ然レニ終ニ各照各
 物ノ鏡有ルノ妙タルニ如カザルナリ之ヲ買フ
 ニハ必ズ良工ノ製作セル者ヲ要ム善トス
 西國ニテハ記號ヲ假充シテ奸利ヲ取ル者ナシ

○一ハ三脚架子有ルヲ要ス此物ハ總テ匣ヲ托
 ルコト穩重ニシテ毫絲ノ動搖ナキヲ以テ善ト
 ス○一ハ擦玻璃架子並ニ吸氣筒鹿皮布及ヒ排
 筆等有ルヲ要ス○一ハ銀水筒有ルヲ要ス磁製
 玻璃製ノ兩種アリ玻璃筒ハ筒中ノ穢淨ヲ見易
 スク抑且ツ擦拭ヲ易シ玻璃筒ヲ用ルニハ須
 ラク帶蓋ノ木匣ヲ以テ外ヲ作スベシ其ノ常行
 其
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



其
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一。照影人ノ頭ヲ
按正ル物

ヲ蘸ス時提掇ニ易クシテ銀水ヲ勻遍ナラシム
其蓋ノ高ハ托版ノ筒内ニ在ルヲ蓋ヒ以テ其ノ
灰塵ヲ避クベキナリ。○一ハ另ニ葛羅礮ヲ裝ル
玻瓶有ルヲ要ス其ノ外ニ玻瓶ノ帽罩アリテ其
氣ヲ散サシメザル為ノナリ。○一ハ發現水ヲ
盛ル玻瓶蓋三個ヲ要ス。○一ハ磁盤三個樹膠盤
一個ヲ要ス此レ海玻索達ヲ盛ルニ用ユ。○一ハ
坐スル者站ツ者ト兩様ノ鐵戲有ルヲ要ス。○一
ハ玻瓶盤ノ天平及ヒ砝碼等ヲ要ス。○一ハ藥水
ヲ過スノ漏子大小各一個樹膠漏子一個有ルヲ

要ス。○一ハ玻瓶漏子三個ヲ要ス。○一ハ十安士
六十滴ヲ要ス。○一ハ銀水ヲ驗ス。輕重表有ルヲ要ス
者ハ乃チ照影ニ必ズ缺クベカラサル物トス

需用之藥料

○陰葛羅礮二十安士。○兩次凝定硝強銀約十安士。
士。○艾典之灰精約一安士。○必啞噤哩酸一安士。
青礬一磅。○海玻索達一磅。○綠氣金約五十哥林士。
○三音呢之灰精約五安士。○凍醋強元酒約十安士。

の水晶漆、酒漆、及び黒漆各一瓶の硝強索達五安
士の炭氣索達兩安士の擦玻璃水一瓶の蛋清紙
五十張の草藍紙一本大小の過淋紙等各一撮有
ルヲ要ス、以上開載スル所ノ藥料一年ノ用ニ備
ルニ足ル、若シ館ヲ開キ藝ヲ賣ル者ハ此例ニア
ラズ

要スルモノハ一六八八年日本書局刊行ノ日本書局
要スルモノハ一六八八年日本書局刊行ノ日本書局
要スルモノハ一六八八年日本書局刊行ノ日本書局
要スルモノハ一六八八年日本書局刊行ノ日本書局

藝談

夫レ藝ハ授受アリ次第アリ權量アリ藝ハ小道
ナレドモ中ニ大觀ヲ寓ス最モ宜シク審慎シテ
テ精詳ナルベシ特ニ疏忽簡畧ヲ忌ム宜シク成
法ニ循守スベシ蒙昧ニシテ自用ヲ忌ム凡ソ一
切ノ作為、次序ノ後先配兌ノ諸法、皆ナ化學ヨリ
出ツ權量ハ一定不易ノ規アリテ妄ニ己ノ意ヲ
加ヘテ増多減少スベカラズ諸般ノ
物事器皿等ハ務メテ件件精潔ナルベシ愈精ニ
シテ愈妙ナリ草率ヲ事スコト勿レ鹵莽ナレバ

必ス減裂ヲ致ス蓋シ寫影感光ノ法ハ口訣訓
誨アリ湏ラク技藝精熟シテ參巧シ變ニ通ジ愈
其妙ヲ盡スベシ○蓋シ照影ハ本ト日光ニ藉ル
玻片紙片鉛片ニ論ナク統テ名ケテ光寫ト曰フ
陰ト陽トノ二種ニ分ツ陰ナル者ハ影ヲ成スニ
人物ト其勢ヲ反ス陽ナル者ハ影ヲ成スニ人物
ト其勢ヲ同フス人物ヲ照スニ陰陽葛羅硯ノ法
アリ然シテ照影ノ法甚ダ夥タシ現在用ル所ハ
唯葛羅硯ヲ勝ヘリトス此ノ法ニ緣ルハ葛羅
硯ヲ以テ君ト為スナリ陰ト陽トノ二法甚シキ

分別ナシ惟配兌ト和合ハ則チ間アルノ三而シ
テ陽法ハ玻片ニ照シ陰法ハ原ト影ヲ成シテ後即チ其事
日早陰法ハ原ト影ヲ成シテ後即チ其事
設クルモノニテ紙片ハ影ヲ成シテ後即チ其事
トシテ寫ス所ニナリ猶ホ印板ノゴトク然リ之
レヲ印スルコト百千ノ多ト雖凡少異ナキナリ
○陰陽玻片ノ照影ニ論ナク通ジテ七事アリ○
其一玻片ノ明淨ヲ要ス○其二葛羅硯ヲ傾ルニ
適中ナルベシ棉花水○其三酒ノ光ノ玻片ヲ要ス
猶ホ霧穀ノ衣ノコトシ

葛羅映ヲ映ケル鏡片ヲ持テ

此章注文ニ書クベシ

硝子銀水ニ蘸シ入レ
 セシムバ即チ變ジテ艾硯銀一層ヲ成シテ葛
 羅硯ノ上ニ挂ル
 シノテ影ヲ成ス
 露セシハ現ル
 水ヲ用テ其霧ヲ洗ヒ
 其七、白漆シ數キテ之ヲ放キ之ヲ先ノ下ニ置
 シ將テ陰影玻片ノ上ニ放キ之ヲ先ノ下ニ置
 テ之ヲ印スレバ
 玻片ノ透明ニシテ光ヲ過

其六、影ヲ定ム
 其五、画ヨリ出シテ後發現呈
 其四、聚影画ニ入レ光ニ感ゼ
 其三、水ヲ傾ケテ
 其二、艾硯銀一層ヲ成シテ葛
 其一、硝子銀水ニ蘸シ入レ

ス處ハ則チ紙黒色ニ變ジ不透明ノ處ハ光ヲ過
 ス能ハザル故ニ紙片白色ノマ、ナリ

照影ニ用ル所ノ玻片ハ一定ノ式アリ收影鏡ノ
 尺寸ヲ按レテ大小三等アリテ一等毎ニ玻片三
 種有リ其上等ノ外ニ尚ホ大號ノ者三品アリ西
 國ニハ式ヲ按シ裁リ成セル玻片アリ儻シ式
 ニ合ハサルノ處アレハ或ハ大ヲ用テホニ改ム

玻片ノ法
 一定ノ式アリ
 收影鏡ノ

須ク^{スベカラ} 玻璃^{バリトウ}カヲ備^{ソナ}エ裁^キリ成^ナシテ方^マニ妥^{オト}ナルベシ
常行^{ジョウコウ}ノ玻璃^{バリトウ}片^{ヘン}ノ若^ニキハ必^{カナラ}ズ用^{ヨウ}フベカラズ但^タッノ
潔^{キヨク}カラザルノミナラズ抑^{フセマカ}且^カツ不平^{フタイラ}ナリ玻璃^{バリトウ}片^{ヘン}ノ
四^シ週^{シュウ}鋒^{ホウ}芭^バ齊^{サイ}シカラザル憂^ウアレバ玻璃^{バリトウ}片^{ヘン}兩^{リョウ}塊^{クワイ}ヲ用^{ヨウ}
テ五^ゴニ之^シヲ銼^{ザレ}礪^{レイ}シテ邊^{ヘン}沿^{エン}ヲ澁^{シヤク}ラシムレバ方^マ
ニ棉^{モン}胚^{バイ}ヲ敷^シキ満^{マン}ルニ好^{ヨシ}シ若^ニモ鋒^{ホウ}芭^バ澁^{シヤク}ラザレバ
葛^{カク}羅^ラ礪^{レイ}ノ性^{セイ}飲^{キン}ル者^{モロ}ナル故^{ユエ}ニ恐^{オウラ}クハ粘^{ネン}著^{チャク}スルコト
牢^{カク}カラズシテ彌^ミ卷^{クワン}ノ弊^{ツイエ}アリシ玻璃^{バリトウ}片^{ヘン}ヲ擦^{ミカ}クニ
西^{サイ}國^{コク}ニハ吸^{キウ}器^キ一^{イチ}箇^{カク}アリテ之^シヲ用^{ヨウ}ユレバ甚^{シバ}ダ便^{ベン}ナ
リ若^ニシ手^テニ油^{アブラ}汗^{アヘ}アレバ恐^{オウラ}クハ其^{ソノ}ノ玻璃^{バリトウ}片^{ヘン}ヲ汚^{カガ}シ

テ甚^{シバ}ダ光^{コウ}潔^{セツ}ナラズ清水^{セイスイ}ニニテ之^シヲ洗^{アラ}フトモ亦^マ
夕^{セキ}淨^{ヨク}ムル能^ノハス擦^{サツ}玻璃^{バリトウ}水^{スイ}ヲ用^{ヨウ}ルヲ好^{ヨシ}トス如^モシ
此^{コノ}物^{モノ}無^ナキトキハ酒^{サケ}ヲ用^{ヨウ}テ洗^{アラ}ヒ或^{アル}ハ城^{シヤウ}水^{スイ}或^{アル}ハ無^ナ
用^{ヨウ}ノ老^{オウ}葛^{カク}羅^ラ礪^{レイ}ニテ洗^{アラ}フトモ俱^{トモ}ニ可^カナリ爾^{ニル}後^{ノチ}淨^{ヨク}
キ乾^{カン}ケル洋^{ヨウ}布^フ用^{ヨウ}テ乾^{カン}擦^{サツ}シ一^{イチ}束^{トク}ノ林^{リン}桿^{カン}櫟^{リキ}ヲ以^モテ
之^シヲ磨^マキ試^シニ口^{コウ}氣^キヲ呵^カシテ玻^ハ璃^リ片^{ヘン}ニ其^{ソノ}氣^キ勻^{ユン}ケレバ
則^{ソレバ}テ始^{ハジ}メテ全^{セン}ク淨^{ヨク}キナリ若^ニモ勻^{ユン}カラザレハ再^{マタ}
ビ擦^{ミカ}キ再^{マタ}ビ試^シムベシ以上^{イジョウ}乃^ハテ玻^ハ璃^リヲ擦^{ミカ}クノ法^{ホウ}
ナリ○^オ次^ジニ譬^{タトヘ}如^ニハ壞^{クワイ}照^{ショウ}影^{エイ}ノ玻^ハ璃^リ片^{ヘン}ハ溼^{シヤク}リ
ノマ、擦^{ミカ}キ淨^{ヨク}ムレバ則^{ソレバ}テ光^{コウ}潔^{セツ}ナリ易^{ヤス}シ復^{マタ}タ淨^{ヨク}

水ヲ傾ケ再ビ之ヲ照シテ可ナリ如シ乾キテ白
漆ヲ上シタル後之ヲ洗フハ甚ダ易カラズ城水
ヲ以テ久シク之ヲ煮レバ漆ト葛羅硯ト脱皮ス
乃チ再ビ前ノ諸法ヲ用テ之ヲ擦キテ淨カラシ
ハ玻片ヲ擦クノ布ハ城水ヲ用テ洗フスベシ切
ニ膜ヲ用ルヲ忌ム玻片ヲ淨ムルノ時之ヲ擦リ
テ極メテ熱スレバ電氣ノ虞冷工定ルヲ俟テ方
ニ藥ヲ傾クベシ否レバ則チ葛羅硯必ズ粘著セ
ズ熟鹿皮ハ軟ヤワラカニツヨシ
用クテ最モ便ナリ以上所載ノ擦法愈精潔ナレ

愈妙ナリ擦淨ノ玻片ニ微塵アレバ羊毛ノ排筆
ヲ用テ之ヲ掃キ潔淨収藏シテ以テ臨時ノ費事
ヲ免カルベシ

暗室説略
暗室ヲ造ルヲ論ズルハ照影ノ首務トス特別
ニ照影ノミニ非ズ各種ノ藥料ヲ收藏シ配兌ス
ルニモ必ズ之ヲ幽暗ノ所ニ置キテ變壞ヲ防グ所
以ナリ若シ太ダ黒ケレバ燈光ヲ藉テ操作スベ

スバシ 須ク 橙黄玻璃ヲ用テ 窗櫺ニ 安置シ 其ノ
黄明ヲ透セバ 操作ニ 易シ 黄光ニ 感スルトモ 事
ニ 害セザルナリ 如モシ 黄光ニ 感スルトモ 事
用ル有レドモ 藍紙ハ 室甚ダ 暗クシテ 操作不便
ナレバ 用フベカラズ 間紅玻璃ヲ用ル有リ 紅紙
ハ人ノ眼光ニ 晃キ 脳筋衣ヲ 遮ルコトヲ 致シ 物
ヲ 看ルニ 盡ク 緑色ナレバ 亦タ 用フベカラズ 然
レドモ 暗室太ダ 狹隘ナルベカラズ 窄ケレバ 則
チ 諸事 礙アリ 第 操作 便ナラサルノミナラス 抑
且ツ 藥氣 薰灼スレバ 頭暈ヲ 起シ 爽ナラザラシ

ハ 室内宜シク 潔淨ニシテ 塵無ラシムベシ 凡ソ
一切 應ニ 用フベカラザル物ハ 中ニ 攪雜スベカラ
ズ 木柵二三層ノ者一座ヲ 置キ 以テ 器皿ヲ 安放
スルノ所ト為シ 又タ 須ク 淨布ヲ 手巾三四 洗手 盥
一箇ヲ 備フベシ 窗櫺門戸ハ 微隙アルベカラズ
若シ 否バ 竟ニ 藍布ヲ 用テ 窗ヲ 障ユ 燭ヲ 燃ヤシ
事ヲ 作スモ 亦タ 可シ 假如バ 正室ノ 窗櫺 寬敞ナル
ニハ 藍布ヲ 用テ 其ノ 十分ノ 八ヲ 障ユ 二分ヲ 留
メテ 黄玻璃ヲ 用ヒ 之レヲ 壁テ、以テ 明ヲ 透
シテ 作為ニ 便シ 或ハ 黄紙 黄洋布二三層ヲ 用テ

窓ニ糊スルモ亦ク可ナリ或ハナル活窗ヲ作
リ啓閉ニ便シ照影ノ事畢リテ之ヲ開キ以テ風ヲ
透シ氣ヲ出スベシ窗ニ臨ミテ小木橋一架ヲ置
キ以テ時ニ臨ミ應ノ諸物ヲ安排シ又夕淨水一器
ヲ置ク桌下ニ水桶一箇ヲ置キ隣水ヲ之ニ傾
ケ瀉スニ備フ凡ソ一應配兌セル藥瓶ハ務メテ
瀕ク簽ヲ黏ケ各物ノ名目ヲ記號スヘシ冬天ノ
寒冷ノ若キハ暗室ノ内必ス瀕ク温燠ナルベシ
太寒ノ照影ハ慢ニシテ佳ナラサルヲ恐ル但照
影ノ寒ヲ惡ムノミナラズ各種ノ藥水モ亦夕凍

ルヲ畏ルノミ血室中宜ク不灰木煤爐ニ坐スル
字ノ義ハ分明ナラズ恐クハ魚炭ノ部既ニヲ用
燃エ盡シテ現ニ在紅燒スル所ノ木煤爐ヲ以テ
ヒテ便ヲ以テ移シ置クベシ切ニ炭火ヲ忌ム暗
室隙ナキヲ以テ其炭氣ノ毒ニ中ランコトヲ恐
ル、ナリ凡ソ光ニ感シ影ヲ發セシムルコト必
ズ暗室中ニ於テ之ヲ作セバ益々其ノ工巧ニシ
テ神ヲ傳フルノ妙ヲ顯ハスベシ
暗室ヲ修ムル圖式
○室内ニ三桌ヲ分ク設ク發現水ハ宜ク黃玻璃
窓ノ下ニ臨ミ銀水筒ハ左ニ列子定影水ハ右ニ

總戸

筒水銀 子掉 水影定

冷熱太ダ過

列子シムベシニ水最モ沾染ヲ
忌リ縁ヲ宜ク分別シテ之ヲ放
ハ置ク所以ナリ其左右二果ノ
上ニハ小ナル木橘各一架ヲ置キ
以テ各等ノ葉瓶ヲ安放スル也
便スノ室中宜ク寒暑表ヲ掛ケ
テ以テ天時ノ冷熱ヲ驗スベシ
照ス所ノ影必ス佳カラザルナ

葛羅硯ヲ傾ル法

葛羅硯ト艾硯塩類トノ各等ノ配法ハ下卷ニ列

葛羅硯ヲ盛ルニ別ニ瓶アリテ玻璃塞ト其帽ト
ヲ具フ其ノ易得ノ氣ヲ散スルヲ忌ムルハ故ナリ

葛羅硯ヲシテ稠濃ナラシムルハ則チ匂シク

流敷セズ如シ稠ナレバ易得幾滴ヲ免スベシ亦

瓶口ニ葛羅硯ノ乾痂アラシメザルヲ要ス如シ

乾痂アラバ宜ク先ヅ擦リ去ルベシ殊ニ此痂ヲ

過ツテ玻璃ノ上ニ傾ケ敷トキハ此物固ト化ス

ル能ハザ者ナレハ其ノ痕跡ヲ致スノ怨アリ
 葛羅碑ト父碑ト俱ニ是ニ單瓶ニ盛装シテ未ダ
 配セザル者ハ照影ノ時現ニ之ヲ免スル可ナリ
 其ノ葛羅碑瓶上ニ簽アリテ皆十配免ノ分數ヲ
 註明セリ須クソノ分數ヲ按シテ配入スレバ差
 ナキニ底シ大約淨葛羅三數ニ父碑一數ヲ免シ
 之ヲ搖提シテ勻シカラシメ澄清スルコト一
 二時許ニシテ即チ用ユベシ如シ能ク放置ナレ
 過レバ則チ尤モ妙ナリ又タ二物清徹ナレ
 巴用ルニ臨ミ現ニ開之ヲ免スモ均ミク不可ナ



ル無キナリノ旁ニ葛羅碑ヲ取ルノ彎玻璃管
 アリ之ヲ用テ其清ヲ取ルニ最モ
 便ナリ
 常用ノ葛羅碑又シケレバ則チ亦
 タ渾底アリオタ此管ヲ用テ其ノ清ル者ヲ取テ
 用ヒシムベシ或ハ照ス時ニ臨ミ大瓶ヨリ三四
 安士ヲ傾ケ或ハ另ニ小瓶ニ傾注シ或ハ葛羅
 碑ヲ装ルノ長瓶内ニ傾ケ注シ用テ果タ再ビ大
 瓶内ニ傾ケテ澄清スルニ常ニ清葛羅碑ノ用
 一トムル者有リテ亦タ渾濁ノ弊ナキ所以ナリ

又タ兼テ葛羅碑^{コルロナラン}過^{グハラン}淋^{リン}ノ瓶^{ビン}ヲ用^{モツ}テ之^シ淋^コシ取^{トル}ル
者アリ^中其^ノ諸^ノ弊^ノ條^ノ也^内圖^ニ說^ハ卷^中
葛羅碑^{コルロナラン}ヲ傾^{カタク}ル^ノ法^ハ照^{シヨク}影^ノ首^{シユウ}務^{ナリ}宜^{ヨシ}ク之^ヲ
演習^{エンシユ}スベシ其^ハ一^ニ傾^{シテ}勻^{ビト}シカラシム^ニ次^ニ之^ヲ
續^ツギ傾^スコト能^ハズ然^{シテ}捷^{シヨク}快^クナル者^{モト}固^{ヨリ}
佳^{ヨシ}シ湏^スク穩^{ラン}准^ニ事^ニ從^{シカ}フコト方^ニ好^{ヨシ}シ而^{シテ}
此^ハ法^ハ明^{メイ}亮^ノ處^ニ在^ルモ亦^マ夕^サ妨^{サマ}ナシ未^メダ銀^{ギン}水^{スイ}
筒^{トウ}ニ入^イレサル^ノ前^{マエ}ハ光^{ヒカリ}ヲ畏^{オリ}レサル^ニ因^ヨルナリ
闇^{アン}室^{シツ}ニ在^リテ燈^{トウ}ヲ用^ルルカ若^{ゴト}キハ湏^スク之^ヲ遠^{トウ}
サ^クバシ其^ノ葛羅碑^{コルロナラン}申^ノ易^エ得^ル火^ヒ見^ミエバ^燃燒^{セン}モ^モ燃^{セン}燒^{セン}

スルヲ恐^{オソ}ル^ノ故^ニ宜^{ヨシ}ク之^ヲ慎^ツムベキナリ切^{セツ}
葛羅碑^{コルロナラン}燈^{トウ}ノ上^{ウエ}ニテ傾^{カタク}クベカラズ傾^{カタク}ク^ニ臨^{リン}ム
ノ時^{トキ}左^サ手^テノ二^ニ指^シヲ以^テ其^ノ浮^{シヨウ}玻^ハ片^{ペン}ノ一^{ヒト}角^{カク}ヲ捏^{ネツ}
リ手^テヲ其^ノ正^{セイ}面^{メン}ニ近^{チカ}ツカシメザルベシ是^コレソ
ノ汚^キ痕^{コン}アル^ノ恐^{オソ}レアリ^大玻^{ダイ}片^ハノ如^{ゴト}キハ宜^{ヨシ}ク吸^{キツ}器^キ
筒^{トウ}ヲ用^{モツ}テ其^ノ玻^ハ片^{ペン}ヲ吸^スハセ以^テ葛羅碑^{コルロナラン}ヲ傾^{カタク}ク
バシ^ハ倚^{ヨシ}玻^ハ片^{ペン}上^{ウエ}ニ微^ビ塵^{チン}アラバ宜^{ヨシ}ク排^ハ筆^{ヒツ}ヲ用^{モツ}テ之^ヲ
ノ兩^{リョウ}面^{メン}ヨリ之^ヲ掃^{ハラ}フベシ或^{アル}ハ吹^{フキ}氣^キ筒^{トウ}ヲ用^{モツ}テ之^ヲ
ヲ吹^フクモ亦^マタ可^カナリ○右^{ミギ}手^テニ葛羅碑^{コルロナラン}ノ瓶^{ビン}ヲ持^{モツ}
テ玻^ハ片^{ペン}ノ當^{トウ}中^{チュウ}ニ傾^{カタク}ケ^テ葛羅碑^{コルロナラン}ヲ平^{ヘイ}正^{セイ}ニ汪^{ワウ}洋^{ヤウ}セ

シノ其ノ一半ヲ蓋フニ至リ其ノ玻片ヲ稍破
テ右ノ上角ニ敷流セシメ己ニ左ノ上角
ビ廻流シテ二指捏ル處ニ至リ其指ヲ没セシメ
ズ復右ノ下角ニ至リ此ノ角ヨリ傾ケテ瓶
入レ其ノ餘瀝ヲ滴ラシ之ヲ攪拌シ盡シ
メシテ兩層ノ胚アラシメサルヲ要ス更ニ其手
指ヲ柳掃スベカラズ其餘瀝背後ニ流入スルヲ
恐アリ是レ特別其萬羅硯ヲ費ヤスノミナラス
倘シ之ヲ帶ビテ筒ニ入レハ更ニ其銀水ヲ費ヤ
スナリ其ノ手ニ玻片ヲ拿ルノ式ハ各人ニ便シ

取ル習貫練熟スレバ能ク巧ヲ生ズルニ至ル餘
ハ必ス更ニ多言セサルナリ

硝強銀水ヲ配スル陽法
ニ次凝硝強銀兩安士、蒸水二十五安士ヲ取
ツ蒸水四安士ヲ用テ銀ヲ化シ硝強銀水ヲ補助
スル為ニ父礬之灰精四哥林士ヲ兌シ之ヲ攪
和スルコト陰法ト同クシ再ビ蒸水二十一安士
ヲ兌シ過淋ス如シ清マザレバ復タ之ヲ淋其
水三安士毎ニ硝強水一滴ヲ兌セバ則チ用ユベ

ベシ蓋シ照影ノ起初ハ陽法ニ始マル陰法ニ興ル
ルヨリ今ハ陽法ノ照影ヲ用ル者鮮ナシ其理ヲ
明サント欲セバ上巻配銀水筒ノ条ニ於テ詳ニ
之ヲ言ヘリ又本卷ノ西硝強銀水ヲ配スル陰
法中ニ於テ之ヲ參閱セテ可ナリ○銀筒中陰陽
ノ二法ニ分ツ其ノ陰ナル者ニ見スル所ハ乃
強之酸ニシテ陽ナル者ニ見スル所ハ是ハ硝
酸ナルノミニシテ酸ニ因テ以テ陰陽二法ニ
別ツ○譬如ハ陰法ノ如キモ亦陽影ヲ照スベク
司葛羅硃ノ内ニ白羅敏鹽類ヲ先入スルニ若シ

黃色ヲ現スレバ乃チ艾硃ノ餘瀝内ニ在ルナリ
陽法モ亦タ能ク陰畫ヲ照スル硝強水ノ有無ヲ論
セス葛羅硃田ハ濃重的ヲ要ス或ハ鏡ト光ト恰
ク對正バ亦タ能ク行スベシ

光ニ感セシムルノ法
按ズルニ吐法ヲ以テ配成スルノ有ク強陽銀水ヲ
但シ銀水ハ常ニ筒中ニ貯エテ沈清セシムル
帶銭ノ木匣ニ安置セル銀水筒ニ傾ケ入ル

好トス現ニ用ヒ現ニ傾ルニ當テ須ク蒸水ヲ
用テ銀簞中ノ塵垢ヲ洗ヒ控淨ムベシ間磁簞ヲ
用ル者アレハ往々簞内ノ磁點子ニ不勻ノ憂アリ
リテ銀水ノ滲漏スルコトアリナリ
ヲ為ス時當テ第一ニ明亮ノ處ニ在テ細ニ簞中
ヲ看テ銀水面上ニ儻シ微塵不潔ノ憂有ハ須
ク紙條ヲ用テ沾シ取りテ淨カラシベシ
葛羅礮ヲ傾ケテ銀簞ニ入ルニ臨ミ務テ其
乾溼適宜ノ者ヲ得テ臍胚ヲ占住セルヲ視テ後
方ニ簞ニ入ルヲ要ス蓋シ太夕溼ハ則縷有リ

太夕乾ケバ則テ光ニ感ゼス○銀水ヲ蘸シ挂ル
時須ク天ノ寒暖葛羅礮ノ稠稀易得酒ノ多寡ヲ
看テ宜ク隨時ニ變遷スベシ光ニ感ズルノ二刻ハ
盛夏ノ時ハ約五秒ヨリ十秒ニ至ル冬寒ノ時ハ
十五秒ヨリ二十秒ニ至ル儻シ麥秋炎熱極燥ノ
時葛羅礮最モ乾キ易ケレバ則テ稍ク元酒ヲ瓶
中ニ兌ル總テ乾溼宜ラ得ルヲ期ス或ハ一指ヲ
用テ輕ク其胚ノ下角ニ觸レシ試ニ其胚上若シ指
印無ケレバ則チ已ニ筒ニ入ルベキナリ而シテ
冬夏ニ論ナク此ニ要法ノミ○玻璃ヲ蘸銀版

前ニ所ノ上ニ放其面ヲ外ニ向ケ
謂ニ版ト幸合連著セシム宜ク安
燕銀ト版ト幸合連著セシム宜ク安
筒内ノ下坂ニ順ツテ平ニ下シ用
ザルベシ此時如シ疑シテ延緩ス
レバ則チ其肝上ニ必ス横擲ラ生
暗室中ニテ之ヲ作取ベク門窓等
カラシムベシ又夕時ニ燕銀版ヲ
ルコト數次シテ以テ豚上ノ銀水
バシ易得ト銀水トハ猶ホ水ト乳
ルガ故ニ此法ヲ行スナリ
サテ玻璃ヲ

世ノ中ニ放クニ先ヅ玻璃ノ背
一層ヲ用テ照時ニ臨ミ以テ其
北棹上ニ放ク受タ宜紙一榻ヲ置
ルトキ倘シ餘日溼之ニ漏リテ淨
片ノ下端ヲ將テ紙榻ノ上ニ放キ
之ヲ輻スルナリ燕テ必需ノ諸物
置キテ以テ臨時延緩ノ弊有ル
照影ノ技ハ總テ簡捷ニシテ快利
ナルヲ妙トス

最モ遅ク緩ナルヲ忌ム然ル所以ノ故ハ玻璃片乾
キ易ケレバ則チ光ニ感ズルコト遲滯スル恐ル
ハ銀水筒ニ入レ浸蘸スル間ハ夏天ハ約一二
分冬天ハ五六分ナルベシ銀水糖果シテ佳ナレバ
寢刻ヲ逾ルモ亦妨無シ藥水淡洽スルヲ俟テ提
リ出シテ之レヲ視ルニ一層ノ薄膜豆腐皮ノ狀
ノ如キアレバ白羅艾燐之銀ナリ則チ其ノ餘滯
ヲ滴スコト約五六秒ニシテ即柅悶ニ入ルベシ
但シ藥面ヲ下ニ向クベシ木ノ玻璃片ヲ放クニ切
ズ上下顛倒スベカラズ之ヲ蓋ヒ輕コシ闇室ヲ

出ント欲スルトキ頃ク黒紙ヲ用テ其柅悶ヲ包ミ
藏シテ光ノ射入ヲ防ギ即展影匣ニ入レテ之ヲ
照スベシ

感發シテ影ヲ成サシムル法
前ニ論スル所ハ皆ナ光ニ感ゼシムル爲ノ運用
節制ノ法ニシテ此ニハ專ラ成影ノ事宜ヲ言フ
暗ニ在リテ藥脈ヲ配兌シ銀水ニ蘸浸スルノ事
畢リ其玻璃片ヲ柅ニ藏メ入レ函蓋ヲ蓋ヒ切不顛

對セザラシメ黒紙ヲ以テ之ヲ單ニ暗室ヲ出テ
豫メ先ヅ聚影ニシテ將テ安置シ穩固ナラシメ
極シテ對テ准ヒ人物ノ影真ニ逼ルヲ看テ再ビ小
頭微ニ用テ之ヲ窺ヒ四無キヲ定メテ對光玻壁
ヲ提リ出シ世間ヲ匣中ニ放ヘ入レ其鏡口ヲ蓋
シ関板ヲ提起シ黒紙ヲ將テ其匣ヲ遮蓋シ照サ
ル人ヲシテ搖動挪移セサラシメ慢ニ鏡口ノ
帽ヲ摘ル但シテ慎テ其匣ヲ撼動スベカラズ其中
毫釐ノ差有レバ千里ノ謬ヲ致スヲ恐ルナリ
○サテ照ニ臨ム以前須ク相機宜キ適ハシメ行

立坐卧各己ノ意ニ憑セ總テ氣度安舒ニシテ意
態和雅ナルベク最モ故浪不檢ノ狀ヲ嫌フ下體
ニ至リテハ照影ニ於テ原風韻ニ關係無シ唯全
ク面目ノ逼肖ヲ要スルモノナレハ上身ヲ最要
ノ要ト為スナリ。若シ照サル時稍搖動スヤ必
ズ四目ニ鼻ノ弊アリ鐵鏡ヲ設ケテ照影ノ時人
ノ頭項ヲ斂エテ分毫モ動カザラシク感光成景
ノ時刻ハ限定スル能ハス光ノ暗日ノ早晏天ノ
冷暖鏡ノ力量截光壁口ノ大小配兌ノ既否等皆
ナ其ノ狀慢ニ関ルモノナリ常時表ヲ以テ之レ

ニ對シテモ十秒ノ頃ニ過キス或ハ表ヲ用
井ズ默シテ之ヲ數ヘ然ル後其筒帽ヲ蓋ヒ
板ヲ插シ入レ世ヲ提テ色ヲ出シ亦黒紙ヲ用
テ包ミ藏シ即チ暗室ニ入レ藥水ヲ用テ發現セ
レムハ又夕暗室ヲ出テ感發セシメントスル時
ニ臨ミ切ズ遲延スルコト勿レ感發成影ヨリ發
現セシムル時ノ間ハ更ニ緩慢スルコト勿レ恐
クハ棉花胚稍ク乾キテ浸潤流暢スル能ハズシテ
發出ノ影ニ半彩無ク又ハ流光閃灼ノ狀有ルヲ
致スニ至ル

聚影画ヲ收拾スル規程
未ダ照影セザルニ先ツテ當豫メ潔淨ヲ為スベ
シ臨時ニ抽擔スヘカラズ恐ラクハ後塵ヲ惹キ
潔ヲ求メテ反ツテ不潔ヲ致サン鏡面ノ裏外宜
ク修飾シ清明ニシテ纖芥並ニ雲翳無ラシムベシ
外國鹿皮或ハ道草或ハ鉢桿襪七八根一束ヲ
用テ齊ク切り之ヲ用テ擦磨潔淨シテ色端
ニ安ズ色後ニ退光玻璃壁有リ宜ク照影ノ玻
璃ノ

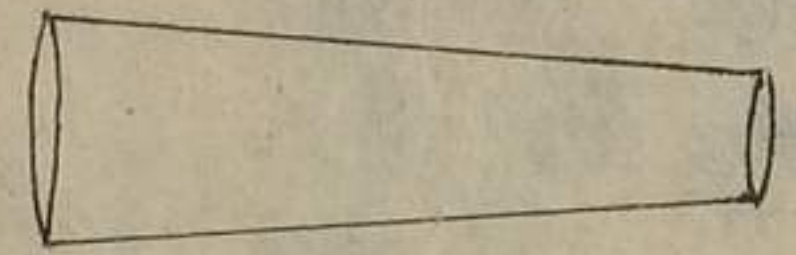
大小ノ按シ目録筆ヲ用テ其ノ横堅ノ界限ヲ破
壁ノ上ニ畫キテ照影ノ準ト為スベシサテ聚影
色ヲ三脚架ノ上ニ安メ以テ人物ノ正中ニ對ケ
青布ヲ用テ首ヲ障セ画後ヨリ其ノ人物ノ影
目真ニ逼リ例ニ破壁ノ上ニ倒ニ懸ルヲ看ル遠
ケレバ小ニシテ近ケレハ大ナリ上下歪正ノ憑
ニ安置セント欲セバ宜ク尖櫃ヲ對ケ準セラ然
ル後之ヲ照スベシ初メテ照影ヲ試ルニハ
宜ク先ヅ物ヲ照シ試ムベシ是レ其ノ動轉ノ意
ナクシテ照スニ易キニ縁ル即シ照壞スルモ亦

夕笑シ人ニ貽サズ煩ニ耐エ審ニシテ眞レムヲ
要ス其ノ初試佳カラサレバ亦タ之ヲ試ムル
ニ在リ若シ仍ホ合ハザルノ憂アレバ須ク至再
至三スレバ終ニ能ク漸ク佳境ニ入ルベシ凡
ソ人物ノ影ヲ照スニ陰陽高背ヲ分ツテ方ニ能
ク其ノ妙趣ヲ盡スヲ要ス蓋シ照影ノ妙訣ハ須
ク其光ヲ取舍照降スルコトヲ會得スベシ南園
ノ照影ニ玻璃室アリ以テ其光ヲ運用シ陰晴日
雨雪ニシテ論ナク俱ニ之ヲ照スベシ後章ニ製選ス
列ル法ヲ院中ニ於テ照影スルガ若キハ最モ要緊

ナル者ニテ人物ノ背後ニハ光ヲ散サシメサル
 要スル照鏡ニ入ルヲ照ルハ光ノ散サシメサル
 テ其散光ヲ照スベシ務メテ鏡中ニ天光及ビ各
 物ノ返光アルヲ審ニスベシ若シ先ヅ其光ノ鏡
 中ニ射入ルガ若キハ必ズ其影霧中ニ在ルガ如
 キヲ致ス人物其近ニ離レ居ルハ散光先ヅ入ル
 能ハズ別ニ一法アリ以テ其光ヲ截ルベシ紙裱
 襖ヲ用テ長サ約一尺許ノ一筒ヲ作り成シ其裏
 ニ黒紙ヲ糊リ筒ノ端ニ套シテ以テ散光ヲ遮
 形塔式ノ如ク鏡筒ノ端ニ套シテ以テ散光ヲ遮

リ青巾ヲ用テ之ヲ蓋フ又夕銅鐵或ハ紙裱ノ
 截光壁アリ皆テ製作スベシ墨紙ヲ用テ之ヲ
 糊リ墨ヲ用テ之ヲ塗り小孔アサル者ヲ用テ散光
 レヲ遮ル

式筒光截



人物ノ影ヲ照スハ光天ノ下ト雖元
 亦タ事ヲ礙ゲス若シ院中ニテ影影
 スルニハ人物必ズ一隅ニ偏シテ
 陰陽ヲ分ツベシ天光モ亦タ帳ヲ用
 テ之ヲ遮ル尤モ妙トス光ヲ藉
 ル向背ノ宜キハ惟北ト西北ノ光トハ照景ニ最

モ好シ是レ黄光無キ故ナリ

照影画ト鏡光ト恰ヤ否ヲ校對ス
壁如ハ新ニ買來ル照影画ハ面作或ハ精シカラ
ズ式様或ハ同ジカラサル有リテ鈕語ノ弊アル
ヲ免レズ必ズ校對シテ試行シ方サニ臨時適用ス
ベシ其画後ノ退光壁ハ又タ一ニ對光壁ト名ク乃
チ影ヲ取ルノ櫃ナリ眞人物ノ影ヲ之ニ對ケ
而シテ画端ノ鏡筒ヲ擲シ下シ前ノ洞ロヨリ尺

シ用テ玻璃ニ探リ抵リ其尺度ヲ量リテ之ヲ記
スニ感光玻璃片ノ画ニ入ル者ト對光壁ト必ス一
限界内ニ在リテ毫釐モ差フ可ラサルハ方ニ尖
櫃ノ所ナルナリハ男ニ一法アリ亦タ之ヲ試ハ
ベシ銀箔ヲ用テ水ニ蘸シ溼シテ玻璃片ノ上ニ黏
ケ尖櫃ヲ對ケ准ハセ約近三尺ニシテ之ヲ照
シ試ルニ亦タ能ク其影ノ眞ヲ見ルコト玻璃ト
一樣ニテ方ニ恰當レリトス試鏡ト稱ルモ亦タ
法則アリ歟竅アリ先ヅ陽影藥水ヲ用テ一幅ノ字
跡ヲ照シ其中心ノ字面ヲ取テ之ヲ照スニ若

シ 遍真ノ處 當中ニ在ラズシテ 四圍ノ處ニ現ハ
ラ、ガ 若キハ此ノ乃チ化學ノ尖樞 眼目ノ既ヨ
リ 長クトオキ其ノ通體 模糊タルガ 若キハ乃チ化
學ノ尖樞 短カキナリ又タ 假如ハ一行數 樹株ノ
樹 伊リ 豎ニ 看テ 當中ノ 樹影ヲ 對ケ 準ニ 真ニ 遍
リテ 之レヲ 照スニ 若シ 後ノ 樹 最モ 真切ナラバ
化學ノ樞 長キヲ 知ル 前樹 真切ニシテ 中後共ニ
模糊ナラハ 則チ 化學ノ樞 眼目ノ 光ヨリ 短キヲ
知ル 乃チ 當ニ 其ノ 玻璃ヲ 柳シテ 必ズ 目光ト 化
學ノ樞 ト 恰モ 對フヲ 源テ 方ニ 適當ト 為 若シ 仍

合ハザルノ處 アラバ 端ニテ 其ノ 鏡筒ヲ 或ハ
前或ハ 後ヘ 担リ 復タ 之レヲ 照シ 試ニ 總テ 照影
ノ 眞著ナルヲ 以テ 要法ト 為ルナリ 口 展影 画
日久シク 用レバ 早乾 燥裂 或ハ 收縮ノ 弊アリテ
其ノ 罅隙ヨリ 光ヲ 透スノ 恐アリ 須ク 隨時ニ 泥
子ヲ 用テ 之レヲ 泥ルベシ 或ハ 黃蠟ニテ 泥ルモ
亦タ 可シ 儼ニ 腰開闔ノ 處 嚴密ナラザルモ 亦タ 隙
アリテ 白光ノ 射シ 入ルヲ 畏ル 則チ 復タ 玻璃 世
間ヲ 提テ 暗室ヲ 出ルノ 時ニ 臨ミ 須ク 黒布ヲ 用
テ 包藏シ 画ニ 入ルモ 亦タ 遮蓋スベシ 總テ 白光

ノ隙ヨリ射シ入ルヲ恐ルヲナリノ裏影ニ治
腰宛腰ノ分アリ惟治腰ノ者ハ影ヲ取ルニ最モ
住シ倭モ仰グモ一ヲ其意ニ任セテ以テ上下ニ
配合シ其ノ照ス所ノ人影ニ頭小足大ニシテ相
稱ハサルノ陋状ヲ致サバルベキナリ

夫レ照影ニ用ル所ノ諸物及ビ配光ノ法俱ニ一
定ノ規程アリ獨リ其光ヲ運用節制スルニハ定

則無ク口授モ無キナリ語ニ云大匠ハ人ニ誨ル
ニ規矩ヲ以テス小人ヲ使テ巧ナラシムル能ハ
ズ運用ノ妙ハ其人ニ存スルナリ嘗テ諸事ク備
ハリ配光咸ナ宜キニ照ス所ノ影ノ佳ナラザル
ハ制光ノ法無キニ縁ルノミ是レ猶小室内ニ珍
ヲ裁シ其戸ヲ扃封スル如キハ必ズ鎖鑰相
投レテ其ノ封ヲ發キ立ニ其中ノ嘉美ヲ見ルベ
キナリ凡ソ百物光ヲ被レバ皓白ノ色ヲ現ハ
サバルハナク光有レバ則チ白ク光無ケレバ則
チ黒シ蓋シ照影ニ光ヲ用ルノ意ハ其ノ陽ヲ欲

スルガ如キハ則チ之ニ向ハセ其陰ヲ欲スルガ
如キハ則チ之ニ背カセ其ノ陰陽ノ適中ヲ欲ス
ルヤ則チ意ニ之ヲ會スベシ影鏡ト目光ト相埒
シキニ因テ人物山川ヲ視ルニ真ニ逼リテ而シ
テ或影成亦タ絶前似ルモノナリノ以上論ズル
所ノ光ヲ運用スル法ハ光天化日ノ下ニテハ能
ク節制スル所ニ非ズ頃ク玻璃室ヲ造リ方ニ
意ニ任セテ施行スベキナリ

玻璃室ヲ製造スルノ法
至小ナル者ハ須ク東西二丈南北丈二、地ヨリ横
標ニ至ル高七尺中標ハ一丈或一丈一二尺ナル
バシ其ノ南房ヲ造ルノ式ハ三面ニ乾ラ壘シ獨
リ其北面ト前坂トニハ純白玻璃ヲ鑲シ頭上ニ
ハ藍布ニテ帳ヲ作り以テ之ヲ遮リ一ハ塵土ヲ
攘ル為ニシ一ハ日光ヲ遮ル為メニシ光ヲ用ル
時或ハ窓ゲ或ハ窓ヲ以テ自ラ便ナルベシ處ノ
一隅ニ偏メ花櫃ヲ套シ座式ヲ設ク此室ニ用ル
所ノ光ハ俱ニ北ヨリシテ來ル其光ハ恬靜ニメ

安穩、溫柔ニ鎮定ナルニ縁ル早、午、晚ニ論ナク
惟、此室ト三面日光トハ、未、涉、假、借、ア、ル、コ、ト、無、ク
若、此室ニ在リテ、北、光、ヲ、藉、リ、テ、照、影、ス、レ、バ、百
發、百、中、ニ、シ、テ、成、影、ノ、工、刻、モ、亦、タ、分、秒、ノ、差、ナ、シ
照、影、ノ、後、背、ニ、ハ、須、ク、圓、屏、机、案、書、籍、文、房、ノ、類、ヲ
列、子、以、テ、陪、襯、ノ、雅、觀、ヲ、作、シ、後、壁、ニ、ハ、灰、絳、二、色、ノ
ノ、花、洋、布、ヲ、用、テ、屏、ヲ、作、リ、須、ク、細、密、ニ、其、縫、頭、ノ
見、エ、ザ、ル、ヲ、方、ニ、好、ト、ス、而、圓、ニ、此、二、色、ニ、テ、織、リ
就、シ、成、ハ、繪、事、セ、ル、屏、壁、ア、リ、即、チ、之、ヲ、用、テ、人、影、
ヲ、照、シ、成、ス、ニ、倍、生、色、ヲ、覺、エ、東、西、ノ、牆、ハ、宜、ク、淡、

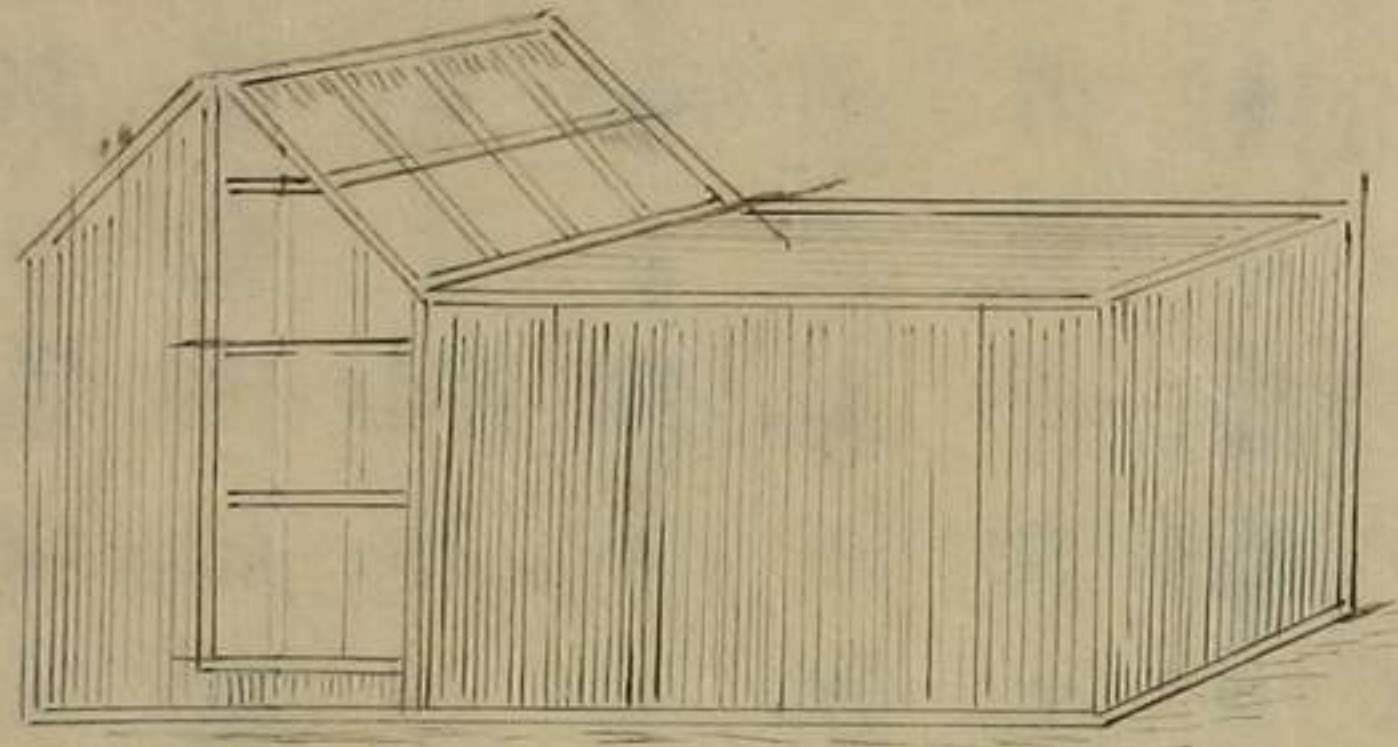
儻々、東西ノ光ヲ假借
ハルヲ能フヤハ

顔、色、ノ、紙、糊、裱、ヲ、用、ル、ヲ、要、ス、バ、シ、或、問、フ、既、ニ、裱、
糊、ト、ス、淡、色、ヲ、用、フル、ハ、何、ノ、故、ゾ、曰、ク、紙、ノ、本、光、ヲ
借、リ、バ、陰、影、ヲ、發、現、ス、ル、コ、ト、太、甚、ニ、因、ル、故、ナ、リ
又、夕、約、二、三、尺、ナル、小、抽、屏、一、箇、ヲ、作、リ、白、漆、ヲ、用、
テ、塗、リ、隱、ニ、隨、ツ、テ、移、シ、置、キ、其、白、光、ヲ、用、テ、陰、暗、ノ
影、ヲ、射、ル、ノ、活、法、ア、リ、也、照、ノ、時、ニ、臨、ミ、向、背、ノ、宜、
宜、適、合、取、舎、ノ、法、權、ハ、此、ノ、義、ヲ、會、ス、ル、者、ノ、調、度、
ニ、標、ル、ベ、キ、ナ、リ、○、玻、璃、ノ、影、照、ノ、處、ハ、小、臺、ヲ、
設、ケ、テ、坐、位、ヲ、置、キ、人、ヲ、使、テ、高、超、メ、以、テ、下、體、ヲ、
照、サ、シ、ハ、炎、烈、ノ、時、ハ、須、ク、天、窗、ヲ、安、キ、テ、以、テ、蒸、

熱ノ氣ヲ出スベシ儼シ頭上ニ映射スルコト有
シバ成影必ス是深目白髪或ハ横光照映射
ハ照シ成セル人影必ズ天度鼻準格ノ影ニ移
影ヲ致ス面扁ノ弊アリ甚キハ眼光流ニテ状七
人ニ類シ式ハ因俸果斜ノ態ヲ現ズ坡室中ノ照
照影ハ須ク斜光ヲ取ルヲ最モ妙トスルナリ若シ
繁雜ノ要ニ在ルヲ欲セズシテ或ハ園圃樹木等
所臺榭突元ノ地ニ在テ照影セバ花卉樹木等
リヲ之ニ照漆陪襯スルバ尤モ雅趣ヲ增添ス
○人ノ正面ヲ照スハ甚ダ生趣ナシ總テ側傍ノ照

影ヲ要ス其式ハ陽ニ向フ七分陰ニ背ク三分ヲ
方ニ妙トス

玻璃室圖



陽影ヲ發現スルノ法
嚴シク暗室ノ關閉ヲ謹シテ少ノ罅隙ナクシテ
以テ白光ノ射入ヲ防ギ即チ柵板ヲ開キ玻璃ヲ
倒返ニ掌中ニ在ラシメテ以テ等リ定メ其ノ玻
片ノ下邊ヲ看テ或ハ銀水ノ控流スル者アラバ
宣紙ヲ用テ之レヲ蘸染シ取ルベシ以上論ズル
所ノ諸法ハ陰陽ニ於テ甚シキ分別ナシ惟形ヲ
呈レ獲スルノ時刻一様ナラサルノミ○將ニ發
現セシメントスルノ時先ガ其玻璃片大ニ割
酌シテ之レヲ浸漬スルニ足ルホドノ藥水ヲ取リ

小ナル玻璃片子ヲ用テ傾ケ瀉ル。平ニ玻璃片ヲ
拏リ第一ニ右ノ下角ヨリ一次ニ壅流シテ
勻カラシメ來回擺播シテ之レヲ浸潤スルコト
約三十秒ヨリ一分ノ數ニ至レバ則チ立ニ其景
ヲ玻璃片ノ上ニ現ハス儼シ初次ニ勻カラズシテ
二次ニ再び傾レバ必ズ人影ノ上ニ其ノ痕迹ヲ
リ或ハ未ダ浮去ラザル銀水有ルニ遇ハバ則
チ發現セラル影ニ必ズ白痕ナルナリ浸漬ノ際漸
ク其陽處ヲ現シ繼テ其陰陽ノ半ヲ現ハシ然ル
後其陰ヲ現露ス陰影全ク出デ、随ツテ清水

シ用テ藥水ヲ洗ヒ去ル約洗フコト一分ノ頃ヨ
リ過サズルベシ若シ遅延スルコト太ダ緩
ハ銀水下澄スルハ則チ其風韻ヲ掩フテ陰處ノ
慘黯ヲ致ス若シ藥水ヲ洗ヒ去リテ呈露正カラ
サレバ則チ景ニ淡薄ノ状アリテ魚ヲ藍緑ノ色
シ現ハシ陰ノ隱處ニ至テ尤莫切ナラス其申
ハ弊ナキコト能ハズ儻シ初テ學ノ人淺深濃淡ノ
分析清カラサルハ或ハ聚影ニ於テ感發セシ
ムルノ工刻ノ多寡ニ原ク力或ハ發現水ニ浸漬
スルノ工夫久暫ナレニ原クカハ則チ辨別シ易

カラザルナリ務メテ頃ラク專心體驗シ久フシテ
自ラ明ナルベシ譬如ハ画中ニ左刻ノ外キ藥水ヲ過
當ナルハ陽必ズ濃重若シ藥水欠缺ナレバ則チ
陽必ズ淡薄ナリ又夕或ハ人影全ク白ク冒目
平扁ニシテ更ニ陰處ノ形無キハ是必ズ画ニ在
ルノ工夫太ダ久キナリ若シ藥水差無クシテ人
影白ニ過レバ則チ其色ニ在ルノ工刻餘有ル
ヲ知ルハ人影黑ニ過レバ則チ色ニ在ルノ工刻足
ラザルヲ知ルナリノ照ス所ノ人影凸露ノ處ヲ
陽ト為シ凹陷ノ處ヲ陰陽ノ半ト為スの若シ發

現ノ時ニ在テ一齊ニ呈露スルハ則チ其ノ色ニ
在ルノ工夫長キヲ知ル若シ發現久フシテ竟ニ
凸陽ノ影ヲ露ハスハ則チ色ニ在ルノ工夫短キ
ノミ

青礬 陽發影水ヲ配スル法
先ツ青礬ヲ水ニ化シ入レ若シ清ケレハ過淋ヲ
須ヒス醋強水及ビ元酒ヲ兌ミテ成ル儼シ日久
蒸水 十安士ノ煎水 同易シ 醋強水 半安士
元酒 半安士
先ツ青礬ヲ水ニ化シ入レ若シ清ケレハ過淋ヲ
須ヒス醋強水及ビ元酒ヲ兌ミテ成ル儼シ日久

クシテ此ノ刺黒稷色ニ変スレバ則チ用ベカラ
スの元酒ヲ兌スハ青礬ノ發現力ヲ助クル爲ナリ
醋強水ヲ兌シテ其色ヲ助クル者アリ或ハ朴硝
醋能ク潔白ナレバ光潤増加ス或ハ朴硝
士ヲ兌シテ其色ヲ助クル者アリ或ハ朴硝
三硝強水五滴ヲ兌ス者アリ

儼シ 洗濯淨カラサルバ定影ノ時ニ至テ必ズ藍
發現ノ後淨糖水ヲ用テ其藥水ヲ洗ヒ去ルバシ
定影ノ談

痕ヲ生ズ發現水ヲ洗淨スルトキニ至テハ則チ
已ニ光ヲ畏レズ即暗室ヲ出窓牖ヲ開クモ亦タ
防礙無ク定影更ニ明變廠快ヲ覺ユ定影水ヲ傾
ルハ發現水ヲ傾ルト其法異ナラス蓋シ此藥水
乃チ玻片上ニ餘ス所未知和合セサルノ艾礮末
銀ノ黃色ニメ猶ホ敗乳ノゴトキ一層ヲ成セ
ル者ヲ消化シ盡シテ後再び清甜水ヲ以テ之ヲ
洗ヒ極メテ淨カラシムベシ此法ヲ行フニ或ハ
藥水ヲ磁盤中ニ注ギ玻片ヲ盤内ニ放テ之
ヲ擺播シ影定ルノ後竹鑷ヲ用テ玻片ヲ拈ミ出

シ再び清甜水ヲ以テ之ヲ洗フベシ其ノ盤ヲ用
ル所以ハ此藥水ノ其手ト手巾トヲ沾汚スルヲ
恐ル、故ナリ蓋シ此定影水ト筒中ノ銀水トハ
大ニ妨礙アリ儘レ手ト手巾トノ爲儻シ未ダ照サバル
ノ玻片ノ上面ヲ沾シテ或ハ毫絲モ筒中ニ帶入
スルコトアラバ銀水都テ壞ルヲ恐ル亦チ手ヲ
用テ玻片ヲ拈ル者モ定影成ルノ後必ず其手ヲ
洗ヒ淨ムベキナリ○定影水ハ平常使用スベシ
或ハ日久キヲ經テ藥力薄クナリハ艾礮銀ヲ消化
スルコト能ハサレハ再び藥ヲ兌セハ亦タ之ヲ

使フベシ 定影成ルノ後 玻璃片ヲ木柵ニ斜ニ立
テ、之ヲ乾カシ 或ハ立地ニ少シモ待ツ能ハサレ
バ、之ヲ烘リ 或ハ曬シ 乾カス 等一ニ其便ニ聽ス
○以上各等ノ方法 惟定影ヲ殿ト為ス 此章ニハ
其利ヲ言フテ 其弊ヲ悉サズ 其弊ノ如キハ 後章ニ
專ラ之ヲ論ズベシ

陽定影水法
三音 呢灰精 六十哥林士 蒸水 六安士ヲ用テ 化合
ス 此ノ水ヲ盛ルノ瓶ハ 粉ヲ簍ヲ粘ケテ之ヲ記

スベシ 此水極メテ毒有ルニ 縁リ 須ク 小心慎重
ナルベシ 手ニ 輝裂有ル 如キハ 尤モ 當ニ 仔細
ニ 小心スベシ 膏 嗶味製ヲ 指套ヲ用テ 其ノ
皮膚ヲ 護スルバ 最モ 善シ 蓋シ 其藥水ノ至毒ナ
ルニ 縁リ 現今 改メテ 海波ノ 省言
用ニ 海波ヲ用エルニハ 海波水ノ筒アリテ 銀水
筒ト 一樣ナルノミ

海波定影水法
海波索達 五安士 熱水 二十安士
ヲ用テ 化合ス

此水日ヲ經ル久キモ壞レズ此物能ク艾礮ノ未
ダ和合セザル銀ヲ化スノ神ハ用ヌベキナリ定
影ノ時此藥水筒中ニ蘸シ入ル五十分ノ工刻ナ
レバ則チ可ナリ蓋シ三音呪反精ノ定影水ヲ用
ル如キハ其藥力最モ大ナル故ニ定影ノ時須ク
其玻片ヲ注視シテ艾礮銀一化薄淨ムヲ見レバ
立ニ即チ快洗淨滌シ盡スズシ儻シ亮釐モ餘藥
ヲ留ムレバ其ノ周圍ニ痕ヲ遺シ燕テハ能ク其
ノ影ヲ剝蝕スルヲ恐アリ

白漆ヲ上スノ論
成影ノ後玻片上ノ葛羅礮薄ニメ霧ノ如ク塗
抹シ易キニ緣リ白漆ヲ上シテ以テ之ヲ護スベ
キナリ玻片乾ケル後微塵アラバ排筆ヲ用テ之
ヲ埽ヒ或ハ吹氣筒ヲ用テ之ヲ吹キ白漆ヲ影上
ニ傾ク其法葛羅礮ヲ傾ルト同ク須ク一次ニ之
ヲ傾ケテ玻片ニ敷滿セシムルヲ要ス此物即時
ニ乾ク者トス若シ微シク玻片ヲ炙レバ其乾尤
モ快シ玻片ノ背後ニ再ビ黑漆ヲ上セテ以テ其
影ヲ襯托セシムベシ其法亦タ白漆ヲ傾ルノ状

ノ如シ頃、ク慎重ニ以テ其正面ヲ汚スルコトナシ
カルベシホタ軟毛ノ釧ヲ用テ濃漆ニ蘸シ之レ
ツ刷リモ可ナリ如シ黒漆無ケレバ青回紙ヲ用
テ背ニ觀ルモ可シ○白漆ヲ上スノ後宜ク黄金
ヲ以テ飾ラ爲リ其影ヲ蛋光柜中ニ藏メ屋壁ノ
上ニ懸料スルノ鏡ヲ挂ル式ノ如クナルベシ儼
シ白漆划摺スルノ窓アラハ玻璃ヲ用テ遮護シ
以テ其座ヲ避ルモ亦妙ナリ○西國ニ杭ラ先時
ハ陽影ヲ玻璃片ニ留メテ飾ルニ金壁ヲ用井タル
ガ現今ハ皆ナシ之ヲ紙ニ印スルナリ陽影玻璃片ヲ

用ユル若キハ儼シ多ク其影ヲ需ルニハ頃ク再復
鏡回之ヲ照シテ費工ヲ免ユルニ似タリ今皆ナ
陰影ヲ以テ之ヲ紙片上ニ印スレバ百千ヲ欲ス
ルトモ再照ラ煩ル無キナリ○玻璃ノ影ハ之ヲ
單法ト謂ヒ印紙ノ影ハ之ヲ雙法ト謂フ

元酒^{アルコホル}白漆^{ハクシツ}四^{シロ}十^{ジュウ}哥^カ紫膠^{ムロコ}三^{サン}哥^カ芸香^{ゲイカウ}三^{サン}哥^カ林^{リン}白漆^{ハクシツ}アルコホル
二物ヲ將テ元酒ニ入レ之ヲ熟化シ過淋シテ收
メ貯フ此ヲ酒漆ト名ク

第二法

琥珀コハク 四哥林士ゲリンシ 呀囉方コロホルム 一安士オンス 此シ 琥珀コハク 白漆フルニス ト名ナ
ク 玻片ヘン シ 極オハ ノ テ 乾カバ カ シ 冷ヒヤ レ テ 此シ 漆フルニス シ 上ノボ ス シ 要ヨウ

第三法

吧嗎油ハママユ 四十哥林士ゲリンシ 安息油アンソユ 一安士オンス
二油フタユ シ 合アハ セ 過淋クハリン ス 一バ 亦マ タ 白漆シロフルニス シ 成ナ ス 此シ シ 水スイ
品漆シヨツフルニス ト 名ナ ク 以イ 上ジョウ ノ 三法サンホフ 皆ミ 十照成シヨクヤイ ノ 玻片ヘン 上ジョウ 二上ニジョウ
セ テ 其影カゲ シ 護ゴ ス ベ シ

黒漆クロフルニス シ 配イ スルノ法

猛火油モウカユ 十安士オンス 石腦油セキノウ 四安士オンス
二物フタモノ 鈹化トカシ シ 卽ハ チ 黒漆クロフルニス ト 名ナ ク 以イ 上ジョウ 黒白コクハク
二漆元フタイロフルニス 配成ハイセイ ノ 者モノ アリ テ 其價アタ 甚タ 廉チヤス ナリ 自ミカ ラ 配イ
スルゴト ハ 但ダ エ シ 費ツイヤ ス ノ ミ ナ ラ ス 恐オソク ク ハ 此シ ノ 名目ナメ
無ム シ 卽モシ 此物モノ 有ア ル モ 亦マ タ 偽イミセ シ 以イ テ 真マコト ニ 雜マデ エ ル 者モノ
アリ テ 反カヘ ツ テ 誤アヤマ シ 致イダク ス コ ト 有ア ル シ 恐オソク ル

第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八
第九
第十
第十一
第十二
第十三
第十四
第十五
第十六
第十七
第十八
第十九
第二十
第二十一
第二十二
第二十三
第二十四
第二十五
第二十六
第二十七
第二十八
第二十九
第三十
第三十一
第三十二
第三十三
第三十四
第三十五
第三十六
第三十七
第三十八
第三十九
第四十
第四十一
第四十二
第四十三
第四十四
第四十五
第四十六
第四十七
第四十八
第四十九
第五十
第五十一
第五十二
第五十三
第五十四
第五十五
第五十六
第五十七
第五十八
第五十九
第六十
第六十一
第六十二
第六十三
第六十四
第六十五
第六十六
第六十七
第六十八
第六十九
第七十
第七十一
第七十二
第七十三
第七十四
第七十五
第七十六
第七十七
第七十八
第七十九
第八十
第八十一
第八十二
第八十三
第八十四
第八十五
第八十六
第八十七
第八十八
第八十九
第九十
第九十一
第九十二
第九十三
第九十四
第九十五
第九十六
第九十七
第九十八
第九十九
第一百